クイックガイド

マルチトラックサウンド編集ソフト

DIGIONSOUND®5 EXPRESS

デジオンサウンド5 エクスプレス

本ソフトウェアをセットアップ（インストール）する前に必ずお読みください。
本ソフトウェアをセットアップ（インストール）すると、本契約の内容を承諾したことになります。本契約の内容に同意できない場合は、本ソフトウェアのセットアップ（インストール）を行わないでください。

使用許諾契約書

本使用許諾契約書（以下、「本契約書」）は、株式会社デジオン（以下、「弊社」）が提供するソフトウェアに関する使用条件を定めるものです。

第1条（定義）

1．「本ソフトウェア」とは、本契約書とともに提供されるソフトウェア（製品名「DigiOnSound5 Express」ライセンス数1）を指します。また、静止画素材、テンプレートファイル、ヘルプファイルなどの使用方法を説明したデータなどがソフトウェアに付属し提供される場合は、これらのデジタル情報の一部または全部も含めます。なお、本ソフトウェアに含まれる第三者の著作権に関しても、本契約書が適用されます。
2．「関連資料」とは、本契約書とともにマニュアルなどの印刷された資料が提供される場合、これを指します。
3．「お客様」とは、本契約書とともに提供された本ソフトウェアを含む製品を購入し本契約書に同意いただいた個人または法人を指します。

第2条（使用条件）

1．お客様は、本ソフトウェアを1台のコンピュータにセットアップ（インストール）してご利用いただけます。
2．お客様のうち特定のただ一人が使用するコンピュータが複数ある場合には、本ソフトウェアを同時に使用しないという条件の下、特定の個人ただ一人が使用するコンピュータに限り複数セットアップすることができます。
3．本契約書は、本ソフトウェアの不具合修正などの目的で改訂したソフトウェアに対しても適用されるものとします。ただし、改訂されたソフトウェアと改訂前のソフトウェアは同一のコンピュータにセットアップされている場合に限ります。

第3条（制限）

お客様は、下記の項目を行うことはできません。

1．本契約書に定めのない、複数コンピュータへのセットアップ（インストール）または複製（コピー）
2．関連資料の複製（コピー）
3．本ソフトウェアに含まれるプログラムの改変またはカスタマイズ、リバースエンジニアリング
4．本ソフトウェアの第三者への再配布、再使用許諾
5．本ソフトウェア（複製物を含む）の貸与（レンタル）、疑似レンタル、中古品としての販売、譲渡
6．本ソフトウェアをネットワークコンピュータやサーバーから第三者が複製またはダウンロードできる状態にしておくこと
7．本ソフトウェアを地上波、衛星、ケーブルまたはその他の媒体を利用した放送、インターネット放送、イントラネットなどネットワークを利用した放送、ペイオーディオ、オーディオ・オン・デマンドのアプリケーションによる放送などに利用すること

上記各号の規定は、本ソフトウェアを改訂した製品をご購入した場合にも継続して適用されます。

第4条（保証範囲）

1．弊社は、本ソフトウェアまたは関連製品に物理的な瑕疵がある場合、お客様がご購入後30日間に限り、弊社の判断に基づき交換いたします。ただし、地震、火災などの天災もしくは戦争による破損またはお客様のご購入後の故意、過失、誤った使用によって生じた破損についてはこの限りではありません。
2．弊社は、本ソフトウェアの機能がお客様の使用目的と適合することを保証するものではありません。弊社は、本製品の物理的瑕疵について保証するものであり、本ソフトウェアまたは関連資料の使用または使用不能から生ずる直接的または間接的被害については一切責任を負いません。
3．弊社は、本ソフトウェアを使ってお客様が行ったいかなる行為についても、その責任を負いません。

第5条（期間）

1．本契約は、本契約が成立した時点、すなわち本ソフトウェアをセットアップ（インストール）した時点に始まり、お客様が本ソフトウェアの使用を停止するまで有効とします。お客様は、本ソフトウェアの使用を停止した時点で、本ソフトウェアおよび関連資料の一切を破棄するものとします。
2．お客様が本契約に違反した場合は、本契約を解除してお客様の本ソフトウェアの使用を停止させることができます。弊社が、本ソフトウェアの停止を通知した場合には、お客様は速やかに本ソフトウェアおよび関連製品の一切をお客様の費用負担で弊社に返却するものとします。

第6条（一般条項）

本契約書に関して生じた紛争については、福岡地方裁判所を第一審の専属的管轄裁判所とします。

はじめに

このたびは、DigiOnSound5 Expressをご購入いただき、ありがとうございました。
DigiOnSound5 Expressは、次のような特長を持ったソフトウェアです。

・16ビット/192kHzサウンドファイルに対応。より繊細なサウンドをPCで操作でき、非破壊型編集により、さらに高音質なミックスダウンが可能。
・リアルタイムにプレビューできるエフェクトを新搭載のエフェクトランチャーで手軽に呼び出し＆設定可能。強化されたノイズリダクション機能や新開発のボーカルキャンセル機能で多彩なミックスダウンが行える。パン＆ボリュームのオートメーション化で思い描いたサウンドを制作可能。
・映像作品に欠かせないBGMの添付やアフレコ、効果音も自在に配置可能。ビデオの時間に合わせてBGMを伸縮させたり、アフレコでは映像と声をシンクロさせることもできる。
・mp3PRO、Ogg Vorbis、Windows Media Audio対応。あらゆるソースをデジタル録音。レコード、カセットもデジタルメディアに録音でき、音楽CD作成対応。オリジナルCDを簡単に作成。

本書は、DigiOnSound5 Expressの操作手順を説明しておりますが、PCそのものやWindowsに関する説明には触れておりません。それぞれの製品に付属されているマニュアルをご覧になり、正しく設定したうえで、DigiOnSound5 Expressをご利用ください。DigiOnSound5 Expressのセットアップ方法は、製品添付のインストールガイドをご参照ください。

mp3PROのご利用に関するご注意

本製品においては、mp3PROのご利用に関して、ライセンスの譲渡や、本製品で作成されたコンテンツを、商業目的において、放送（地上波、衛星放送、ケーブルテレビ、あるいはその他の配信手段を使って行われるもの）、ストリーミングアプリケーション（インターネット、イントラネット、およびその他のネットワークを経由して行われるもの）、およびその他の配信システム（ペイ・オーディオや、オーディオ・オン・デマンド、およびそれに類する方法によって行われるもの）、または物理媒体（CD、DVD、半導体チップ、ハードディスクドライブ、メモリカード、およびそれらに類するもの）を用いて、配布・配信する権利を含むものではありません。
これらの用途でのご利用には、別途ライセンスが必要となります。詳しくは、下記URLをご覧ください。

http://mp3licensing.com/

商標について

・デジオン、DigiOn、DigiOnSoundは、株式会社デジオンの登録商標です。
・DigiOnAudioは、株式会社デジオンの商標です。
・mp3PRO音声圧縮技術は、Coding Technologies、Fraunhofer IIS、Thomsonからライセンスを受けています。
・Microsoft、Windows、DirectX、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
・Pentium、Celeron、MMXは、米国インテル社の登録商標または商標です。
・Ligos、GoMotionは、Ligos社の登録商標です。
・Ogg Vorbisは、Xiph.Orgの商標です。
・その他記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

Copyright(C)2005 DigiOn, Inc. All rights reserved.

著作権について

©2005　株式会社デジオン
このマニュアルの一部または全部を株式会社デジオンの許可なく複製することはできません。
このマニュアルに記載されている内容を、将来予告なしに変更する可能性があります。
マニュアルは万全の注意を払って制作していますが、マニュアルを参考にした操作において損害が生じても責任を負いません。
映像、静止画、音楽などは、著作物として著作権法によって保護されています。市販、あるいはレンタルで提供されるビデオ、DVD、CDや、テレビ放送、ラジオ放送などは、個人で楽しむ場合を除き、複製（コピー）または録画、録音をすることが著作権法によって禁じられています。ご自身のオリジナルではないこうした著作物を、私的使用の範囲を超えてホームページなどに掲載したり、他の人に譲渡、販売するなどの頒布、配信する場合（改変、編集した場合も同様です）には、著作権者の許諾を得る必要がありますので十分ご注意ください。
本製品に収録されているテンプレートファイル、サンプルファイル等については、商用目的でない範囲でご利用いただくことができます。

目　次

準備編 ……1

・DigiOnSound5 Expressを起動する ……2
・DigiOnSound5 Expressを終了する ……3
・DigiOnSound5 Expressウィンドウの構成 ……4
マルチトラックウィンドウ ……4
コントローラー ……4
選択区間ウィンドウ ……5
エフェクトランチャー ……5
ミキサーコントロール ……6
・ウィンドウとツールバーの説明 ……7
メインウィンドウおよびマルチトラックウィンドウ ……7
ツールバー ……11
コントローラー ……12
選択区間 ……14
ミキサーコントロール ……15
エフェクトランチャー ……17

スタートアップ・ガイド1 ……19

・ファイルを開こう ……20
・開いたファイルのサウンドを聴いてみよう ……22
・トラックを追加しよう（ファイルの読み込み）……24
・マルチトラックのサウンドを聴いてみよう ……25
・マルチトラックのファイルを保存しよう ……26

スタートアップ・ガイド2 ……27

・サウンドファイルをマルチトラックに取り込もう（ファイルを開く/読み込み） ……28
・ステレオにミックスダウンしよう～その１：パン（定位）を決める ……32
マルチトラックを定位させるポイント～その1：パンの基本……34
マルチトラックを定位させるポイント～その2：パンの振り具合……35
・ステレオにミックスダウンしよう～その２：音量バランスを調整する ……36
マルチトラックの音量を調整するポイント ……39
・ミックスダウンの結果をMP3にしよう（ファイルの書き出し）……40

基本編～マイクや外部オーディオ機器から録音する（基本操作）……43
・録音ポイントを設定する～その１：挿入録音 ……45
・録音ポイントを設定する～その２：上書き録音 ……46
・マルチトラックを再生しながら録音する（オーバーダビング機能）……47
・録音するサウンド形式（サンプリング周波数/量子化ビット数）を設定する ……49
・サウンドデバイスを設定する ……50
・メニューの説明（ヘルプの紹介）……52

応用編①：逆引き辞典～How To 集 ……53

応用編②：トラブルシューティング ……55

○付録 ……61
・ショートカット一覧 ……62
・DigiOnサポートカルテ ……64
・ユーザー登録のお願い ……65
・ユーザーサポートについて ……66

マニュアルの表記について

本マニュアルでは、記述を簡潔にするため、本文中では以下の表記を用いてます。

・本マニュアルでは、『DigionSound5 Express』を『DigionSound5』または『本ソフト』と省略して表記している場合があります。
・ボタン、メニュー、キーの名称などは［ ］で囲って表しています。
・実際の操作には、文字を太字にした番号を付けて記載しています。
・本マニュアルでは、Windows XPで画面の解像度を1024×768ピクセルに設定した画像を使用しています。お使いのPCによっては、画像の大きさ、配置、細部が異なる場合があります。また、ウィンドウやダイアログボックスで、一部開発中の画像があります。あらかじめご了承ください。

準備編

DigiOnSound5 Expressの起動、終了とウィンドウの説明

ここでは、DigiOnSound5 Expressの起動と終了方法、基本的なウィンドウ、操作ボタンの説明を行っています。実際にDigiOnSound5 Expressを操作する準備として、各項目を確認してください。
DigiOnSound5 Expressを使用するためのインストールの手順は、製品添付の『インストールガイド』を参照してください。

DigiOnSound5 Expressを起動する

DigiOnSound5 Expressの起動手順

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［すべてのプログラム］-［DigiOn］-［DigiOnSound5 Express］をクリックすると、DigiOnSound5 Expressが起動します。

これ以外にも、次の方法でもDigiOnSound5 Expressを起動させることができます。

・［クイック起動］のショートカット・アイコンをクリックします。

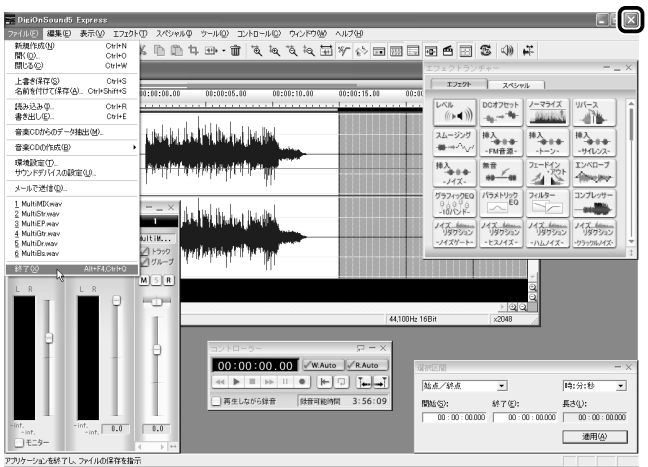
・デスクトップ上のショートカット・アイコン

をダブルクリックします。

DigiOnSound5 Expressを終了する

DigiOnSound5 Expressの終了手順

1 ［ファイル］メニューの［終了］を選択します。また、DigiOn Sound5 Expressの右上にある［閉じる］ボタンをクリックしても終了できます。



メモ

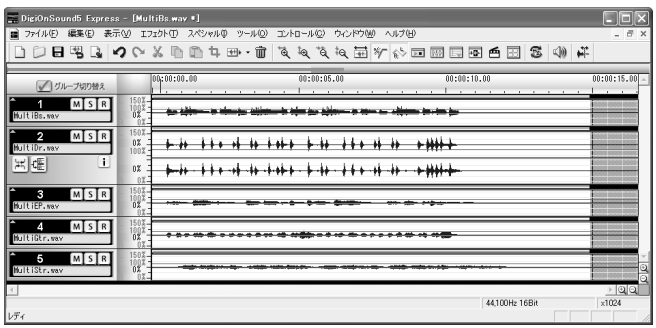
開いているファイルに変更が加えられている状態でDigiOnSound5 Expressを終了しようとすると、ファイルを保存するかどうかのダイアログボックスが開きます。

DigiOnSound5 Expressウィンドウの構成

DigiOnSound5 Express を構成している基本ウィンドウは、5つあります。これらは、DigiOnSound5 Express 起動時に、自動的に表示されますが、［表示］メニューで非表示にすることも可能です。

マルチトラックウィンドウ（→P.7）

1 波形編集を行うウィンドウです。



コントローラー（→P.12）

マルチトラックの再生・録音・停止などの操作を行うウィンドウです。

ヒント

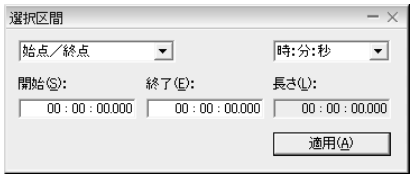
インストール後、最初にDigiOn Sound5 Expressを起動したときには、サンプルファイルが自動的に開きます。［ファイル］メニューの［環境設定］-［表示］タブで、［起動時に前回開いていたファイルを開く］チェックボックスをオンに設定しておくと、二回目以降のソフト起動時には、前回終了時に開いていたファイルが自動的に開きます。オフに設定すると、ソフト起動時にはファイルは開きません。

メモ

コントローラーは、必ずマルチトラックウィンドウの前面に表示されます。

選択区間ウィンドウ（→P.14）

現在の選択範囲または点滅カーソルの位置を表示します。



エフェクトランチャー（→P.17）

マウスでボタンをクリックするだけで、素早く目的のエフェクトを起動できます。[エフェクト] タブには本ソフトに搭載されているエフェクトが、[スペシャル] タブには、複数のエフェクトを組み合わせないと実現できないような効果がセットされています。

用語

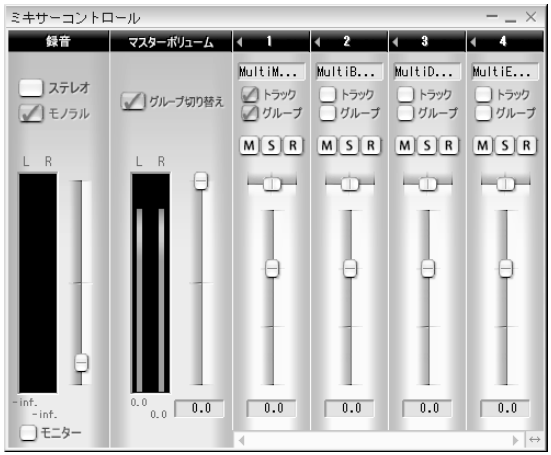
点滅カーソル（→P.10）

メモ

選択区間ウィンドウは、必ずマルチトラックウィンドウの前面に表示されます。

ミキサーコントロール（→P.15）

録音・再生のボリューム調整や定位（パン）の設定を行います。



用語

定位（パン）（→P.32）
トラックパンコントロール（→P.16）

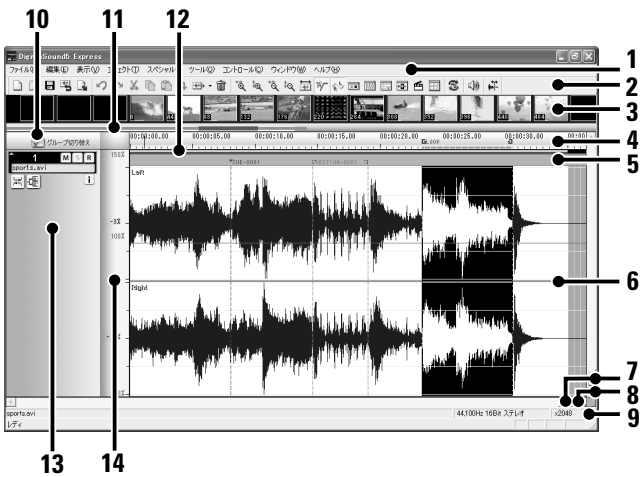
メモ

ミキサーコントロールは、必ずマルチトラックウィンドウの前面に表示されます。

ウィンドウとツールバーの説明

ここでは、各ウィンドウとツールバーの基本的な説明をします。それぞれの詳細な使い方については、オンラインマニュアルを参照してください。

メインウィンドウおよびマルチトラックウィンドウ



1 ［メニュー］
各操作メニューを表示します。各メニューについては、DigiOnSound5に搭載されている『ヘルプ』を参照してください。『ヘルプ』の表示のさせ方は、『メニューの説明（ヘルプの紹介）』をご参照ください。（→P.52）

2 ［ツールバー］（別項目参照→P.11）
アイコンをクリックすることで各操作を実行することができます。

3 ［ビデオトラック表示］エリア（別項目参照→P.8）
ビデオファイルおよび参照ビデオファイルを持つDigiOnSoundフォーマット（*.dgs）のファイルを開いた場合、このエリアにビデオファイルのサムネイルが表示されます。

4 ［タイムルーラー］
タイムルーラーは、時間目盛り、トラック全体に対するキューポイントやセクション、ループのマーカー、選択範囲を表示します。

5 ［キューポイント/セクション表示］エリア（別項目参照→P.10）
個々のトラックに対するキューポイントやセクションを表示します。

6 ［波形表示］エリア（別項目参照→P.10）
波形を表示します。

7 ［ズームイン］ボタン
波形を振幅方向、または時間軸方向に拡大表示します。

8 ［ズームアウト］ボタン
波形を振幅方向、または時間軸方向に縮小表示します。

9 ［ステータスバー］（別項目参照→P.10）
マルチトラックウィンドウの情報を表示します。

10 ［グループ切り替え］ボタン
グルーピングのオン/オフを切り替えます。

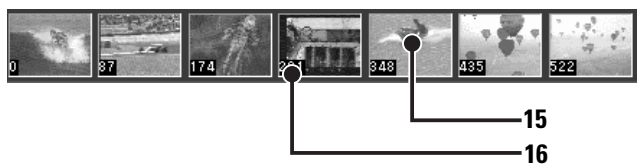
11 ［表示位置ガイダンス］エリア
表示されている波形が、全波形（白帯）のうちどの部分なのかを緑線で表示します。

12 ［目盛り表示］エリア
時間軸を目盛り表示します。目盛りの単位は、変更することができます。

13 ［トラックコントロール］（別項目参照→P.9）
ソロ、ミュートなどのトラックの操作を行います。

14 ［振幅表示］エリア（別項目参照→P.10）
現在のカーソルの位置、または選択範囲の波形の振幅情報を表示します。

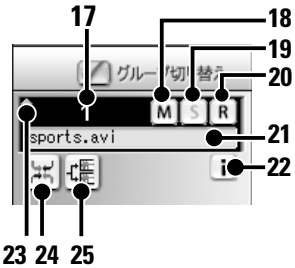
●ビデオトラック表示エリア



15 フレーム
ビデオトラックのフレームをサムネイル状に表示します。マウスポインタの位置に追従して、ビデオフレーム画面をアニメーション表示することも可能です。

16 フレームナンバー
フレームの番号を表示します。表示/非表示の設定ができます。

●トラックコントロール



17 ［トラック番号表示］エリア
トラックの番号を表示します。トラックが選択されているときは、白色で表示されます。

18 ［ミュート］ボタン
再生時にミュート（消音）します。一度クリックするとミュート状態になり、再度クリックするとミュートが解除されます。これらはミキサーコントロールと連動しています。

19 ［ソロ］ボタン
再生時に他のトラックをミュート（消音）します。これらはミキサーコントロールと連動しています。

20 ［レコード］ボタン
マイクや外部オーディオ機器をPCに接続して録音する場合にオンにします。これらはミキサーコントロールと連動しています。

21 ［トラックラベル設定表示］エリア
読み込んだファイル名を表示します。これらはミキサーコントロールと連動して書き換えることが可能です。

22 ［トラック情報］ボタン
トラックのプロパティダイアログボックスを表示して、詳細な情報を見たり、オフセットなどの設定を行うことができます。

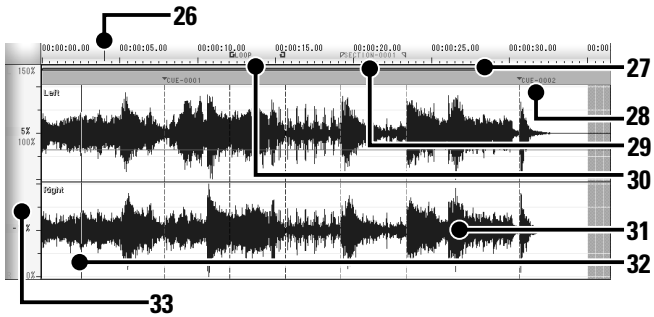
23 ［トラック折りたたみ］ボタン
トラックの表示を最小化します。再度クリックすると元の表示サイズに戻ります。ミキサーコントロールと連動します。

24 ［トラック内ミキシング］ボタン
各トラック内で設定したパン（定位）やボリュームエンベロープをそのトラック内の波形に反映させ、スピーカーから聞こえるのと同じように波形を書き直すことでパン（定位）やボリュームエンベロープをリセットします。

25 ［トラック分割］ボタン
ステレオトラックをモノラルトラックに分割します。

［トラック内ミキシング］ボタンにより波形を書き直す場合は、波形を上書きするために元の波形は失われます。

●振幅表示エリア&波形表示エリア&キューポイント/セクション表示エリア



26 [マウス位置表示バー]
マウスのポインター位置を表示します。ステータスバーのタイム表示と連動しています。

27 [オフセットバー]
波形のオフセット状態を表示します。

28 [キューポイント]
キューポイントを表示します。

29 [セクション]
セクションを表示します。

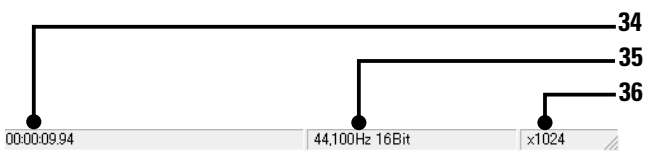
30 [ループ]
全トラックに対するループを表示します。

31 波形
サウンドを波形表示します。

32 [点滅カーソル]
再生ポイントを表示します。マウスのクリック操作で移動させることができます。

33 [振幅表示] エリア
点滅カーソル部分の波形振幅を表示します。また、パン/ボリュームエンベロープ使用時には、その情報も表示します。

●ステータスバー



34 タイム表示
マウスのポインターの位置をタイムルーラーの時間で表示します。
35 サウンド形式表示
編集中のサンプリング周波数と量子化ビット数を表示します。
36 倍率
波形の表示倍率を表示します。

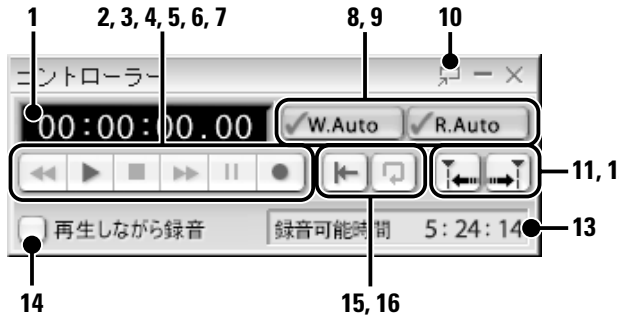
ツールバー

各操作内容は、DigiOnSound5 Expressに搭載されている『ヘルプ』の「メニュー一覧」を参照してください。

1 新規作成
2 開く
3 上書き保存
4 読み込み
5 書き出し
6 元に戻す
7 やり直し
8 カット
9 コピー
10 ペースト
11 トリミング
12 トラック追加
13 トラック削除
14 ズームイン
15 振幅ズームイン
16 ズームアウト
17 振幅ズームアウト
18 画面にあわせる
19 ［ボリュームエンベロープ］の表示/非表示切り替え
20 ［パンエンベロープ］の表示/非表示切り替え
21 ［コントローラー］ウィンドウの表示/非表示切り替え
22 ［ミキサーコントロール］ウィンドウの表示/非表示切り替え

23 ［キューポイント・セクション・ループ リスト］ウィンドウの表示/非表示切り替え
24 ［選択区間］ウィンドウの表示/非表示切り替え
25 ［ビデオプレビュー］ウィンドウの表示/非表示切り替え
26 ［エフェクトランチャー］の表示/非表示切り替え
27 サウンド形式
28 ［録音コントロール］の起動
29 サウンド分割

コントローラー



1 ［録音/再生位置モニター］
録音・再生ポイントを時間表示します。
2 ［巻き戻し］ボタン
巻き戻し再生をします。
3 ［再生］ボタン
再生、または録音を開始します。
4 ［停止］ボタン
再生、または録音を停止します。
5 ［早送り］ボタン
早送り再生をします。
6 ［一時停止］ボタン
再生、または録音を一時停止します。再度クリックすると再生、または録音を再開します。録音待機状態にクリックすると、録音を開始します。
7 ［録音］ボタン
録音待機状態になります。録音の開始は、再生、または一時停止ボタンをクリックしてください。

8 ［オートメーション書き込み］ボタン
再生中にミキサーコントロール上で操作したボリュームやパンの動作を、オートメーション機能を使い自動的にマルチトラックウィンドウ上のパン/ボリュームエンベロープに書き込む場合にオンにします。

9 ［オートメーション読み込み］ボタン
マルチトラックウィンドウ上に配置されたボリュームやパン（定位）エンベロープの情報をオートメーション機能を使い自動的に読み込みながら再生する場合にオンにします。

10 ［コントローラー表示切り替え］ボタン
クリックすると、コントローラー表示の大小を切り替えます。

11 ［前のマーカー］移動ボタン
再生中、または停止中に、再生ポイント（点滅カーソル）をひとつ前のマーカーに戻します。実行位置より前にマーカーがない場合は、点滅カーソルをトラックの先頭に移動します。

12 ［次のマーカー］移動ボタン
再生中、または停止中に、再生ポイント（点滅カーソル）を次のマーカーに進めます。実行位置より後にマーカーがない場合は、点滅カーソルをトラックの最後に移動します。

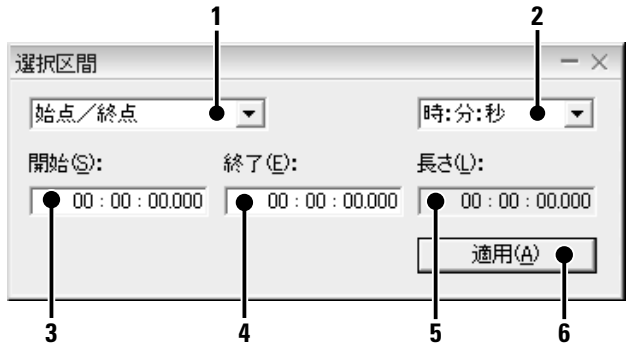
13 録音可能時間
お使いのPC（ハードディスク）で録音可能な残り時間を表示します。

14 ［再生しながら録音］チェックボックス
読み込んだ波形データや、すでに録音が終わったトラックの再生音を聴きながら、新しいトラックに録音することができます。（オーバーダビング機能）

15 ［全トラックの先頭に移動］ボタン
点滅カーソルを先頭に移動し、全マルチトラックが再生できるようにします。

16 ［ループ］ボタン
［ループ］ボタンをオンにすると、選択した範囲やループを挿入した範囲を繰り返し再生します。ループさせる範囲が特に指定されていない場合は、再生しているトラックの先頭から最後までを繰り返し再生します。

選択区間



1 範囲設定プルダウンメニュー
選択範囲の設定方法を「始点／終点」「始点／範囲」「終点／範囲」のいずれかから選択します。

2 単位設定プルダウンメニュー
時間単位を設定します。

3 開始時間入力エリア
選択区間の始点を表示します。数値入力ができます。

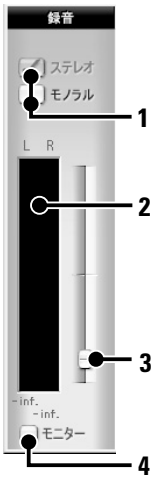
4 終了時間入力エリア
選択区間の終点を表示します。数値入力ができます。

5 範囲区間長入力エリア
選択区間の時間を表示します。数値入力ができます。

6 適用ボタン
設定内容をマルチトラックウィンドウに適用します。

ミキサーコントロール

●録音エリア



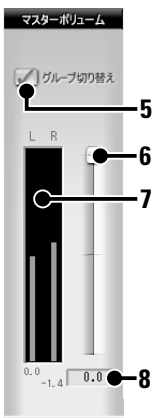
1 ［録音チャンネル設定］チェックボックス
ステレオ録音するか、モノラル録音するかを選択します。ここで設定したチャンネルと異なるトラック（録音先）は選択できません。

2 ［録音レベルモニター］
録音レベルを表示します。

3 ［録音レベルコントロール］
スライダーを操作して録音レベルを調節します。

4 ［録音モニター］チェックボックス
チェックすると、録音の状態をモニターしながら録音できます。

●マスターボリュームエリア



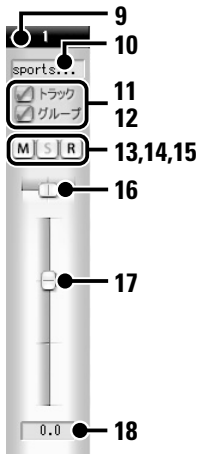
5 ［グループ切り替え］チェックボックス
グルーピング機能のオン/オフを切り替えます。

6 ［マスターボリュームコントロール］
スライダーを操作して再生ボリュームを調節します。

7 ［再生レベルモニター］
再生レベルを表示します。レベルモニターはL/Rの 2 本になります。

8 ［マスターボリューム設定表示］エリア
マスターボリュームコントロールの位置を数値表示します。
数値入力でマスターボリュームの値を設定することもできます。

●トラックエリア



9 ［トラック折りたたみ］ボタン
トラックの表示を最小化します。再度クリックすると元の表示サイズに戻ります。マルチトラックウィンドウのトラックコントロールと連動します。

10 ［トラックラベル設定表示］エリア
読み込んだファイル名を表示します。これらはマルチトラックウィンドウのトラックコントロールと連動して書き換えることが可能です。

11 [基準トラック設定]チェックボックス
グルーピングの基準トラックを設定します。

12 [グルーピング設定]チェックボックス
グルーピングを設定します。

13 ［ミュート］ボタン
再生時にミュート（消音）します。一度クリックするとミュート状態になり、再度クリックするとミュートが解除されます。これらはマルチトラックウィンドウのトラックコントロールと連動しています。

14 ［ソロ］ボタン
再生時に他のトラックをミュート（消音）します。これらはマルチトラックウィンドウのトラックコントロールと連動しています。

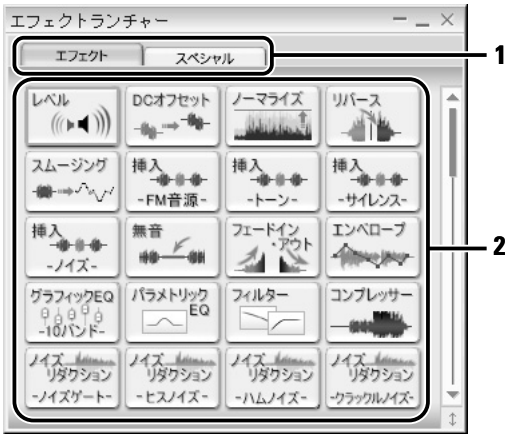
15 ［レコード］ボタン
マイクや外部オーディオ機器をPCに接続して録音する場合にONにします。これらはマルチトラックウィンドウのトラックコントロールと連動しています。

16 ［トラックパンコントロール］
左右のパン（定位）を設定します。

17 ［トラックボリュームコントロール］
各トラックの再生ボリュームを調整します。

18 ［トラックボリューム設定表示］エリア
トラックボリュームコントロールの位置を数値表示します。
数値入力でトラックボリュームの値を設定することもできます。

エフェクトランチャー



1 ［エフェクト］/［スペシャル］選択タブ
エフェクトランチャーに表示するエフェクト内容を選択します。［エフェクト］タブを選択すると、『レベル』、『ノーマライズ』など、計29種類のエフェクトが表示されます。
［スペシャル］タブを選択すると、『ボーカルキャンセル』や『位相反転』など、複数のエフェクトを組み合わせた効果や、エフェクトを特定の使い方に限定した効果が用意されています。

2 ［エフェクト］ボタン
各エフェクトのボタンをマウスでクリックするか、［↑］［↓］［←］［→］キーでボタンを選択して［Enter］キーを押すと、エフェクトを実行したり、エフェクトの設定を行うダイアログボックスを表示します。

ヒント

［エフェクト］タブの内容は［エフェクト］メニューから、［スペシャル］タブの内容は［スペシャル］メニューから選ぶこともできます。

注意

選択しているトラックに対して、処理できないタイプのエフェクトのボタンは非アクティブとなり実行できません。

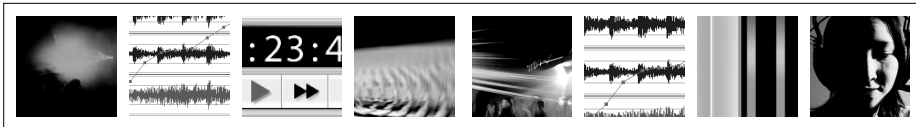
ヒント

ボタンには、各エフェクトのイメージがグラフィカルに表現されているほか、マウスのポインターをボタンに近づけると、効果の内容の説明が表示されます。

MEMO

スタートアップ・ガイド1

ファイルを開いてサウンドを再生してみよう



Multi-track Sound Editing Software

DIGIONSOUND®5 EXPRESS

スタートアップ・ガイドは、DigiOnSound5 Express付属の音素材を使い、各ページの手順どおりに作業をするだけで、実際にサウンドを鳴らしたり、ファイルを保存することができる手引きです。初めてDigiOnSound5 Expressを使う方も、難しいことはさておき、まず音を鳴らしてみて、DigiOn Sound5 Expressを体験してみてください。

ファイルを開こう

DigiOnSound5 Expressは、複数のトラックを使って録音/再生できるマルチトラックサウンド編集ソフトです。これを使いこなす最初の一歩として、DigiOnSoundファイル（ファイル名：music1.dgs）を開いて、サウンドを鳴らしてみましょう。まず最初に、DigiOnSound5 Expressにあらかじめ用意されているサウンドファイルを使って、サウンドファイルの開き方について説明します。

1 DigiOnSound5 Expressを起動します。（→P.2）

2 ［ファイル］メニューから［開く］を選択します。

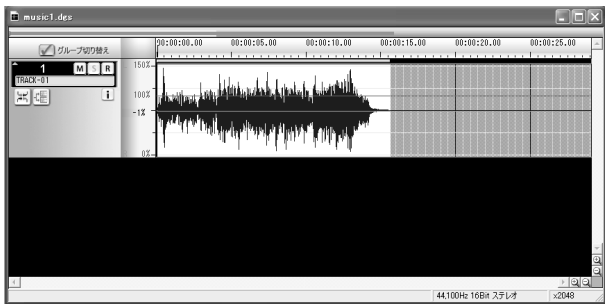
3 ［開く］ダイアログボックスが表示されますので、［ファイルの場所］で［Tutorial］フォルダを選択します。

メモ

使用するサウンドファイルは、DigiOnSound5 Expressをインストールしたハードディスク（通常はCドライブ）の［Program Files］-［DigiOn］-［DigiOnSound5 Express］の下の［Tutorial］フォルダ内にあります。

4 ［music1.dgs］ファイルを選択します。ここで、［プレビュー］ボタンをクリックすると、そのサウンドファイルが再生され、ファイルの中身を確認することができます。

5 ［開く］ボタンをクリックします。するとマルチトラックウィンドウが新規に作成され、トラック 1 に［music1.dgs］の波形が表示されます。

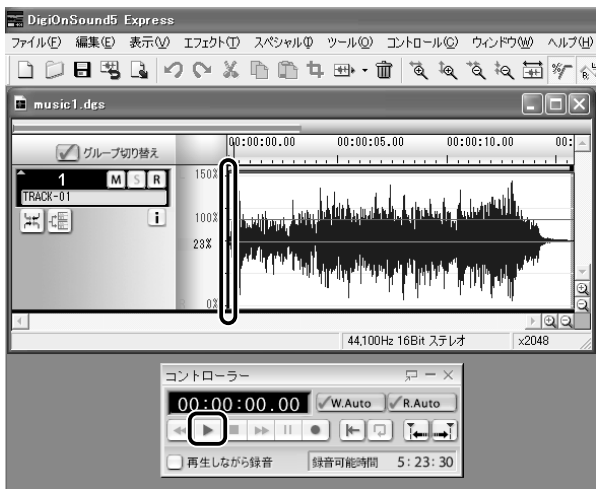


［開く］ダイアログボックスの［自動再生］チェックボックスにチェックを入れておくと、サウンドファイルを選択すると自動的にプレビューが開始します。

開いたファイルのサウンドを聴いてみよう

開いたファイルのサウンドを聴いてみましょう。サウンドの再生/停止などの操作はコントローラー（→P.12）で行います。

1 トラック1に表示された波形の左端に、点滅カーソル（→P.10）があります。ここが再生のスタートポイントとなります。この状態で、コントローラーの［再生］ボタンをクリックすると、再生が開始されます。

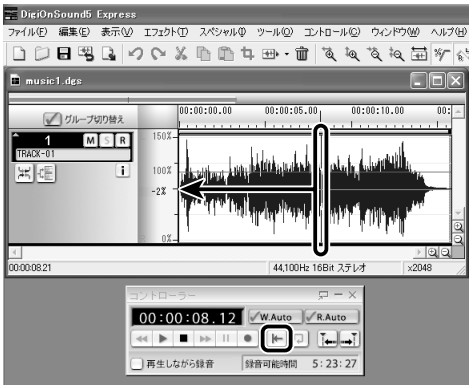


2 再生の途中で［停止］ボタンをクリックすると再生が停止し、そのポイントに点滅カーソルが表示されます。そのポイントから再び再生を開始する場合は、［再生］ボタンをクリックます。

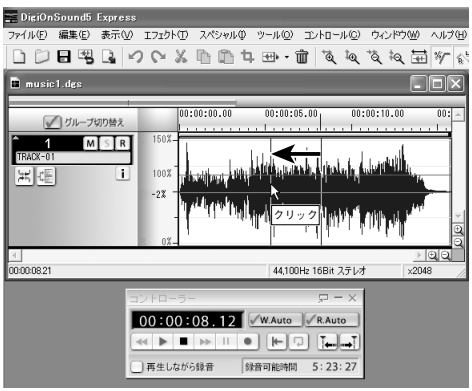
3 もう一度、最初から再生したい場合は、［全トラックの先頭に移動］ボタンをクリックしてから、再度［再生］ボタンをクリックします。

再生してもスピーカーから音が出ない場合は、PCとオーディオ機器の接続、サウンドデバイスの設定を確認してください。

［スペースキー］を押しても、再生が開始されます。また、［H］キーで［全トラックの先頭に移動］ボタンをクリックした時と同じ動作をします。その他、再生中に、［F］キーを押している間は早送り再生、［B］キーを押している間は巻き戻し再生などのショートカットがあります。詳しくは『ショートカット一覧』を参照してください。



4 再生中（または停止中）に、マウスのポインタを波形の自由な位置に合わせてクリックすると、点滅カーソルが移動し、そのポイントから再生できます。



5 マウスをドラッグして波形の一部分の範囲を選択した場合は、選択の開始ポイントから再生を始め、選択終了ポイントで再生が停止します。

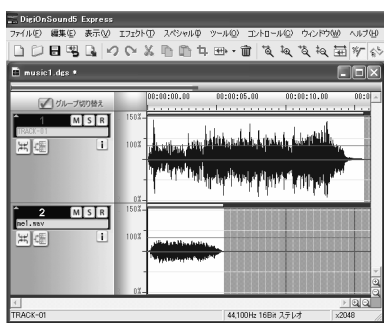
トラックを追加しよう（ファイルの読み込み）

DigiOnSound5は「ファイルの読み込み」を行うことで、既存のファイルに、別のオーディオ・ファイル（波形）を追加していくことができます。「ファイルの読み込み」を行うと、マルチトラックウィンドウに新規トラックが追加され、そこに波形データが配置されます。

1 ［ファイル］メニューから［読み込み］を選択します。

2 ［読み込み］ダイアログボックスが表示されますので、［ファイルの場所］で［Tutorial］フォルダを選択し、［me1.wav］を選択します。

3 ［開く］ボタンをクリックすると、マルチトラックウィンドウに［トラック2］が新規に作成され、［me1.wav］の波形が表示されます。



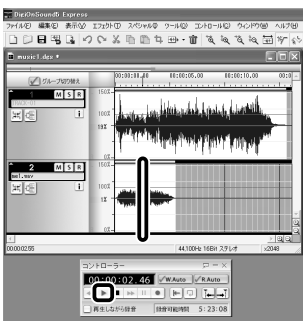
メモ

トラックは、「読み込み」だけでなく録音することでも追加することができます。

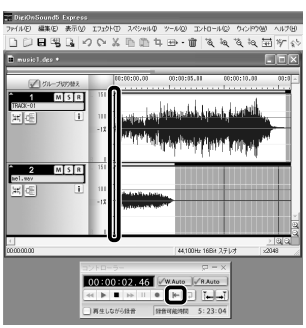
マルチトラックのサウンドを聴いてみよう

新しく追加して読み込んだファイルを重ねた、マルチトラックのサウンドを聴いてみましょう。サウンドの再生・停止はコントローラー（→P.12）で行います。
ここで注目していただきたいのは、ファイルを読み込んだ直後では、点滅カーソルは追加した［トラック2］の先頭部分だけにあり、読み込んだファイルのサウンドだけを再生することができる点です。これを、最初に開いたサウンドファイルと同時に再生することで、マルチトラックの再生が行えるのです。

1 点滅カーソルが［トラック2］だけにあることを確認して、コントローラーの［再生］ボタンをクリックすると、［トラック2］のサウンドだけが再生されます。



2 ［トラック1］と［トラック2］を同時に再生する場合は、コントローラーの［全トラックの先頭に移動］ボタンをクリックします。すると、点滅カーソルがすべてのトラックに表示され、複数のトラックを同時に再生することができます。これが、マルチトラック再生です。



ヒント

停止中に［コントローラー］の［録音/再生位置モニター］（→P.12）の時間表示にマウスのポインターを合わせ、ダブルクリックすると時間表示をリセットすることができます。

マルチトラックのファイルを保存しよう

DigiOnSound5 Expressは、マルチトラックの状態でDigiOn Soundフォーマット（*.dgs）のファイルを保存することができます。編集作業の途中などにファイルを保存しておけば、いつでも再度、ファイルを開いて編集作業を継続することができます。また、編集終了時でも、オリジナルデータのバックアップとして利用することも可能です。保存の詳細については、オンラインマニュアル『基本編／基本用語解説』を参照してください。

1 ［ファイル］メニューから［名前を付けて保存］を選択します。

2 ［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されるので、［保存する場所］に保存先のフォルダを指定し、［ファイル名］に保存する際のファイル名を入力します。

3 ［保存］ボタンをクリックすると、DigiOnSound形式で、ファイルが保存されます。

ヒント

［上書き保存］を選択すると、同じファイル名のままで編集結果が上書きされます（オリジナルデータはなくなります）。

オリジナルファイルの状態に変更が加えられると、マルチトラックウィンドウ左上に表示されるファイル名の右側に［*］が表示されます。これは、ファイルを保存することで消えます。

ヒント

保存できるサウンドファイルのファイル形式は、DigiOnSound形式だけですが、通常のファイル形式以外に、DigiOnSound Ver.1でも開ける［DigiOnSound Format v1.x］フォーマット、DigiOnSound2およびDigiOnSound3でも開ける［DigiOnSound Format v2.x］形式も選択することができます。

スタートアップ・ガイド 2

マルチトラックをステレオにミックスダウンしてみよう

スタートアップ・ガイド2では、ただ単にサウンドファイルを読み込むだけでなく、いろいろと波形編集を行って、最終的にステレオのサウンドファイルにミックスダウンする手順までを紹介します。ここでも、手順どおりに作業を進めるだけで、ミックスダウンが体験できます。マルチトラックのサウンド編集の魅力を味わってください。

サウンドファイルをマルチトラックに取り込もう（ファイルを開く／読み込み）

まず最初に必要なのは、音素材（サウンドファイル）の読み込みです。ここで、マルチトラックを理解するためには、トラックをひとつの楽器（またはプレイヤー）と考えるとよいでしょう。つまり、ここではバンドサウンドを作り出すための各種楽器をトラックに揃える作業を行います。DigiOnSound5 Expressのソフトウェアにあらかじめ用意されている［Purpose］フォルダ収録のサウンドファイルを使います。

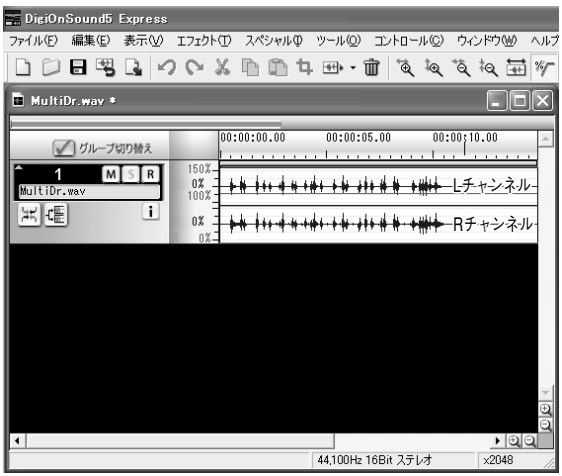
1 DigiOnSound5 Expressを起動します。
2 ［ファイル］メニューから［開く］を選択します。
3 ［開く］ダイアログボックスボックスが表示されますので、［ファイルの場所］で［Purpose］フォルダを選択します。

4 ［MultiDr.wav（ドラム）］ファイルを選択します。ここで、［プレビュー］ボタンをクリックすると、そのサウンドファイルが再生され、ファイルの中身を確認することができます。

メモ

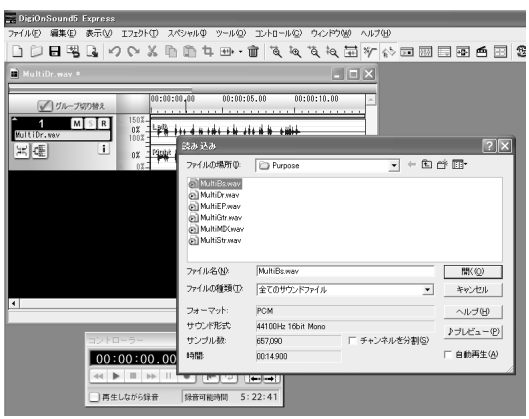
使用するサウンドファイルは、DigiOnSound5 Expressをインストールしたハードディスク（通常はCドライブ）の［Program Files］-［DigiOn］-［DigiOnSound5 Express］の下の［Purpose］フォルダ内にあります。

5 ［開く］ボタンをクリックします。するとマルチトラックウィンドウが新規に作成され、［トラック１］にドラムの波形が表示されます。
ここで、ドラム（MultiDr.wav）はステレオで録音されているので、ひとつのトラックに左右２チャンネルの波形が表示されます。

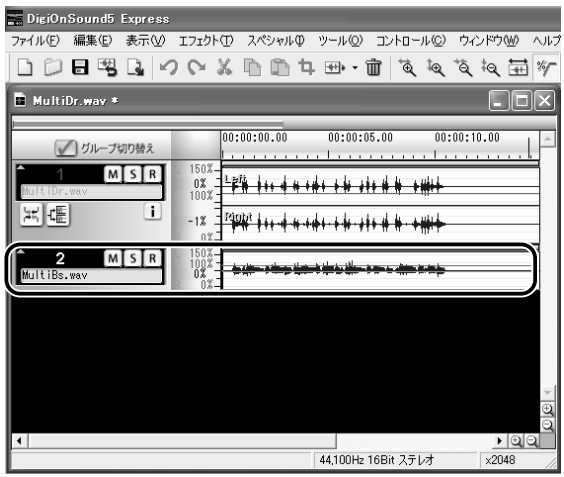


6 続いて、ベースのサウンドを追加します。［ファイル］メニューから［読み込み］を選択します。

7 ［読み込み］ダイアログボックスが表示されますので、［ファイルの場所］で［Purpose］フォルダを選択し、［MultiBs.wav（ベース）］を選択します。

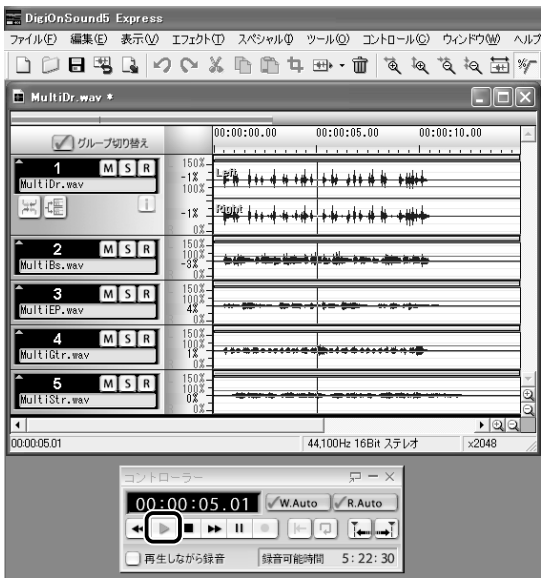


8 ［開く］ボタンをクリックすると、マルチトラックウィンドウに［トラック 2］が新規に作成され、ベースの波形が表示されます。ここで、ベース（MultiBs.wav）はモノラルで録音されているので、ひとつのトラックに 1 チャンネル分の波形が表示されます。



9 以下同様に、［MultiEP.wav（ピアノ）］、［MultiGtr.wav（ギター）］、［MultiStr.wav（ストリングス）］のファイルを順次読み込んでいきます。すると、合計 5 トラック 6 チャンネルのマルチトラックとなります。

10 最後に読み込んだトラック5（[MultiStr.wav（ストリングス）]）波形の先頭に点滅カーソルがあるので（→P.10）、[全トラックの先頭に移動] ボタンをクリックしてから、[再生] ボタンをクリックすると、全パートが同時に演奏されます。
このように、DigiOnSound5 Expressは簡単に複数の音を重ね合わせることができます。



[Space] キーを押しても、再生が開始されます。また [H] キーで[全トラックの先頭に移動] ボタンをクリックしたのと同じ動作をします。

複数のトラックを同時に再生するだけでなく、個々のトラックを選択することで、個別に、もしくは一部のトラックだけを再生することも可能です。

ステレオにミックスダウンをしよう～
その1：パン（定位）を決める

複数の音を重ね合わせたと言っても、今はただ単に、すべての音が同じ方向から同じ音量で鳴っているだけです。これを、バンドのステージでの演奏と同じように、各楽器（プレイヤー）の立ち位置を演出したり、音量を調節してアンサンブルを整えることで、ただの音の重ね合わせから「楽曲」に仕上げることができます。このような編集作業のことを「ミックスダウン」と言います。
DigiOnSound5 Expressでは、［ミキサーコントロール］（→P.15）を使うことで、各トラックの定位（パン）やボリュームを調整することで、ミックスダウンを行います。
ここでは、まず最初に各トラックのパン（定位）を設定しましょう。なお、P.34のコラム『マルチトラックを定位させるポイント』も参考にしてください。

1 各トラックのパンは、ミキサーコントロールの［トラックパンコントロール］で調整します。ドラム（トラック1）のパンから設定します。

用語

パン（定位）：
一般的な音楽CDなどでは、さまざまな音が左右に広がるステレオ空間で鳴っています。このように、音を再生したときに、音源が鳴っている（と感じる）方向をパン（定位）と言います。各音源のパンをずらすことで、音の広がり感を演出できるだけでなく、各パート間の音の分離をよくするという効果もあります。

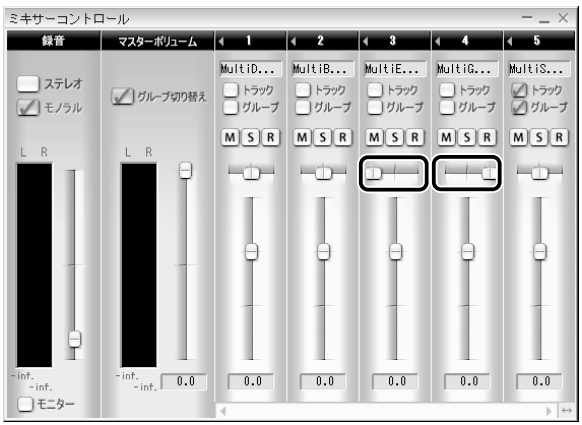
ヒント

［ミキサーコントロール］の各スライダーは、マウスでつかんで動かすだけでなく、スライダーを一度クリックしてマウスホイールで上下することもできます。

2 ドラムはステレオファイルなので、[トラックパンコントロール]を左（または右）に動かすと、左（または右）のサウンドが大きくなり、左右のバランスが悪くなってしまいます。ですので、ドラム（トラック１）のパンはセンターにしておきます。

3 次にベース（トラック２）のパンを設定します。ベースはモノラルファイルなので、[トラックパンコントロール]で左右どちらにでも定位させることができます。しかしながら、ベースもリズム楽器ですので､ここではベースのパンもセンターに設定します。（→P.46）

4 以下同様に、バッキングのピアノ（トラック３）とギター（トラック４）はそれぞれ左右に、メロディーを担当しているストリングス（トラック５）はセンターにパンを振り分けます。



5 パンを設定したら、コントローラーの［再生］ボタンをクリックして、マルチトラックを再生します。実際にサウンドを聴きながら、好みのサウンドになるようにパンを微調整してください。

ヒント

左の音量が極端に小さいなど、オリジナルの左右音量バランスが悪いステレオファイルの場合は、[トラックパンコントロール]を使うことで、左右のバランスを整えることができます。

ヒント

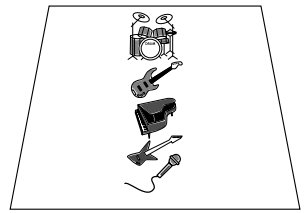
実際に、パンを一番右、または一番左に設定して再生すると、スピーカーの右、または左から音が鳴ることがわかります。ヘッドホンで聴くと、音の定位がよりはっきりとわかります。

ヒント

DigiOnSound5 Expressでは、パンを固定せずに、再生時に曲の中でパンを移動させられる「パンエンベロープ/オートメーション機能」があります。これにより、音源が左右を動き回るような効果を演出することができます。

マルチトラックを定位させるポイント〜その1：パンの基本

各トラックを左右に定位させることができると言っても、実際のところ、どうパンを設定させればいいのか、なかなか難しいところです。そこで、一般的な定位のさせ方のポイントを紹介しておきましょう。



パンを設定する前のサウンドイメージ

【リズム・パート】

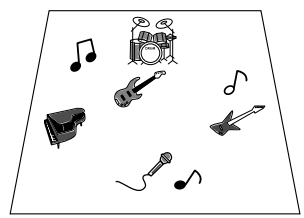
ドラムやベースなどのリズム楽器は、センターに定位させると、曲全体が安定して聴こえます。ドラムはステレオが一般的ですが、ベースをステレオにすると、左右に広がり感が出てしまい、安定感がなくなりますので、ベースはモノラルがよいでしょう。

【メロディー・パート】

ボーカルやリードギターなど、メロディーを担当するパートもセンターが基本です。音楽のメインパートをセンターに定位させることで、曲を聴きやすくすることができます。

【これ以外のバッキングパート】

コードギター、キーボード、パーカッションなどのパートは、左右に広げます。メロディー以外で目立たせたい音は左右端に、シンセのようなステレオサウンドは、センターの左右端の間を埋めるように設定するといいでしょう。

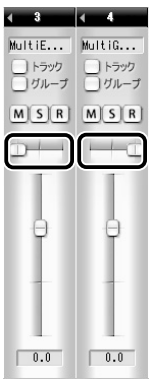


パンを設定した後のサウンドイメージ

マルチトラックを定位させるポイント〜その2：パンの振り具合

バッキングパートを左右に振り分けると言っても、完全に振り切るのか、センターから少しずらすのかで、曲の印象は大きく変わってきます。

スタートアップの素材を使って、実際に画像のように定位を設定して、両者を聴き比べてみましょう。定位が楽曲のイメージに与える影響の大きさがわかるはずです（ヘッドホンでチェックすると、より明確に違いがわかります）。



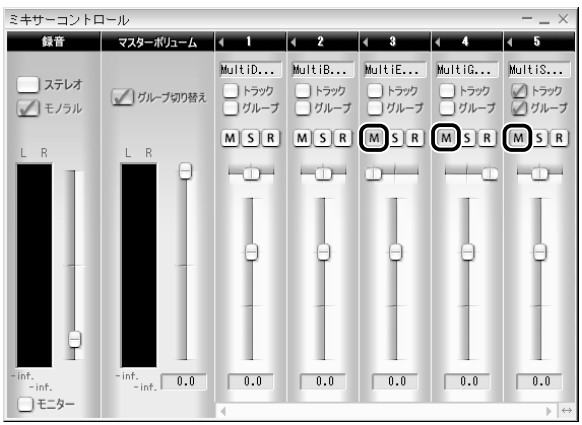
パターン1：ギターとピアノの定位を左右に振り切った場合

パターン2：ギターとピアノの定位を中心からわずかにずらした場合

ステレオにミックスダウンをしよう～ その2：音量バランスを調節する

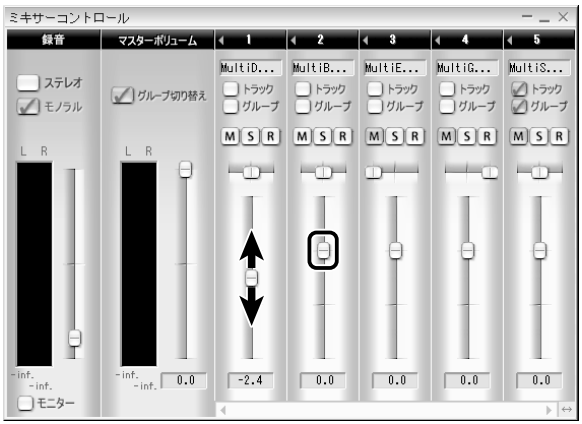
パンの設定と同様にミックスダウンで重要な作業が、各トラックの音量バランスです。ここでは、ドラム、ベース、ギターといった楽器間のアンサンブルを考えて、トラック毎の音量バランスを整えていきましょう。音量バランスの調整は、［トラックボリュームコントロール］（→P.16）で行います。

1 まず最初は、曲の土台となるドラム（トラック1）とベース（トラック2）という、リズム楽器の音量バランスから調整します。この時、他の3つのトラック（ピアノ/ギター/ストリングス）の音が再生されないように、［ミュート］ボタンをマウスでクリックして、トラック3～5の音をミュート（消音）すると、バランスが取りやすくなります。

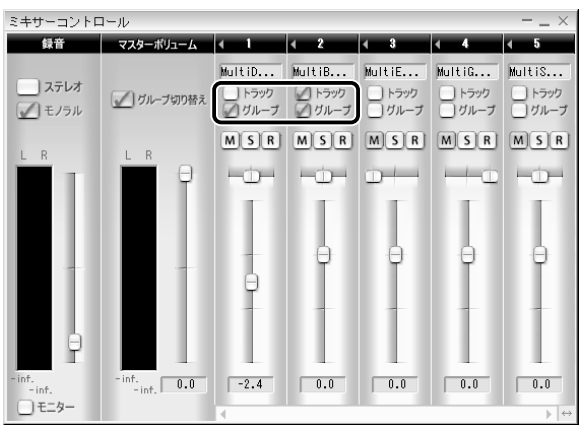


音量バランスは、アンサンブル的な音の大小だけでなく、音源の遠近感も作り出すことができます。リバーブなどのエフェクトを使うと、よりいっそう効果的な演出が行えます。

2 ベース（トラック2）の［トラックボリュームコントロール］の位置を基準として、ドラムとベースがうまく混ざり合うように、ドラム（トラック1）のボリュームを調整します。



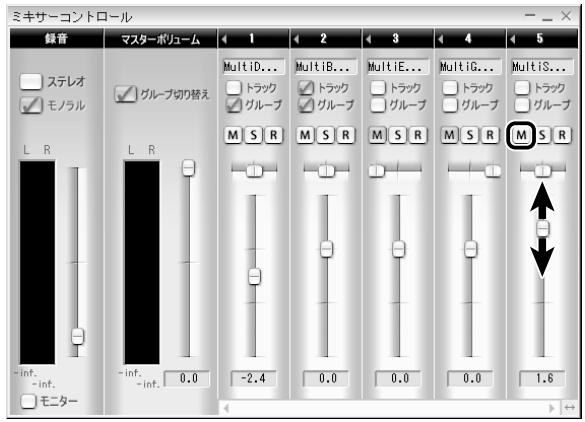
3 バランスの調整ができたら、ドラム（トラック1）とベース（トラック2）の音量の相対関係が変わらないように、［グループ切り替え］ボタンをクリックして、グルーピングしておきます。このとき、どちらかをグルーピングの基準として［基準トラック設定］チェックボックスのマークをクリックします。ここでは、ベース（トラック2）を基準とします。



ヒント

グルーピング設定後に［トラックボリュームコントロール］を動かすと、グルーピングしたトラックが、ボリューム関係を保ったまま連動します。これで、ドラムとベースという独立した楽器ではなく、ひとまとまりの「リズム楽器」として、曲の中でボリュームをコントロールすることができます。

4 次に楽曲のメインとなるメロディーを担当しているストリングスパート（トラック5）の音量を調整します。[ミュート] ボタンをクリックして、ミュート状態を解除します。



5 最後に、左右に定位を振り分けたバッキングのピアノパート（トラック3）とギターパート（トラック4）も、手順4と同じ方法で調整します。

6 バランスの調整が終わったら、再度曲全体を聴き直して、パンと音量を微調整すれば、ミックスダウンは終了です。

ヒント

DigiOnSound5 Expressでは、音量を固定せずに、再生時に曲の中で音量を変化させられる「ボリュームエンベロープ/オートメーション機能」があります。これにより、クレッシェンドやデクレッシェンドといった表現も可能になります。

ヒント

パンや音量だけでなく、エフェクト処理も行うと、より高度なミックスダウンを行うことができます。

マルチトラックの音量を調整するポイント

各トラックの音量バランスの取り方には決まりはありませんが、BGMとは違い、例えばギター・インストゥルメンタル曲やボーカル曲など、メロディーが重視される楽曲のバランス調整は、曲を完成させる重要な要素となります。ここで、一般的な音量バランスの調整ポイントを紹介しましょう。

【リズムパート】

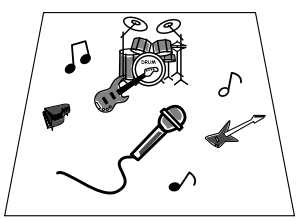
楽曲の骨格を成すパートなので、ドラムとベースのバランスは重要です。どちらかが極端に聴こえてしまうようなバランスは避け、お互いが一体感を持って聴こえるポイントを探しましょう。リズムパートは、全体の「基準」ですので、あまり小さ過ぎず、かといって大き過ぎないように設定し、他のパートをリズムに対して上下させる、といった考え方で調整を行うのがよいでしょう。

【メロディーパート】

楽曲のメインですから、一番目立たせるパートです。リズムパートに埋もれないように、かつうるさくなり過ぎないことに注意して調整します。

【これ以外のバッキングパート】

コードギター、キーボード、パーカッションなどのパートは、メロディーとリズムに装飾をつけるようにアンサンブルさせていきますが、左右に定位を広げている分、音が目立って聴こえるので、さほどボリュームを上げなくても、しっかり聴こえます。また、音色の音の抜けのよさによって、同じボリュームの位置でも、とても大きく感じたり、また逆に小さく感じることもあります。このように、あくまでもボリュームの位置ではなく、耳に聴こえてくる音量バランスで調整すると、よりよいミックスダウンが行えるでしょう。

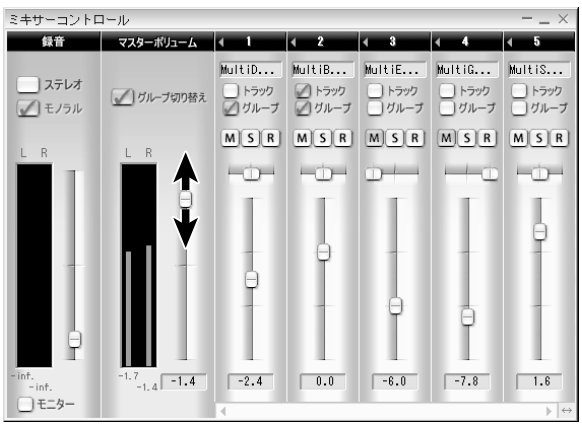


聴かせたいパートが最重要。低音＆リズム楽器はどっしりと。

ミックスダウンの結果をMP3にしよう（ファイルの書き出し）

マルチトラックサウンドのミックスダウンが終わったら、ステレオ（2チャンネル）またはモノラル（1チャンネル）のサウンドファイルに変換することで、DigiOnSound5 Expressに限らず、多数の音楽再生ソフトで音楽を再生することができます。DigiOnSound5 Expressでは、MP3をはじめ、WAV/AIFF/WMA/AVIなど様々なファイル形式に書き出すことが可能です。
ここでは、手軽なサウンドファイルとして人気のMP3フォーマットに保存しましょう。

1 ミックスダウンしたマルチトラックの再生ボリュームを、［ミキサーコントロール］の［マスターボリュームコントロール］で調整します。



2 ［ファイル］メニューから［書き出し］を選択します。

注意
音量レベルが最大の時に、レベルオーバーしないように注意しましょう。

3 ［書き出し］ダイアログボックスが表示されるので、［保存する場所］に保存先のフォルダを指定し、［ファイル名］に保存する際のファイル名を入力します。
ここではMP3形式のサウンドファイルに書き出すので、［ファイルの種類］で［MPEG Audio Layer-3/mp3PRO(*.mp3)］を選択します。

4 ［保存］をクリックすると、書き出しを実行します。書き出しが終了したら「ファイルの保存が完了しました。保存された形式のウィンドウを開きますか？」というダイアログボックスが表示されます。

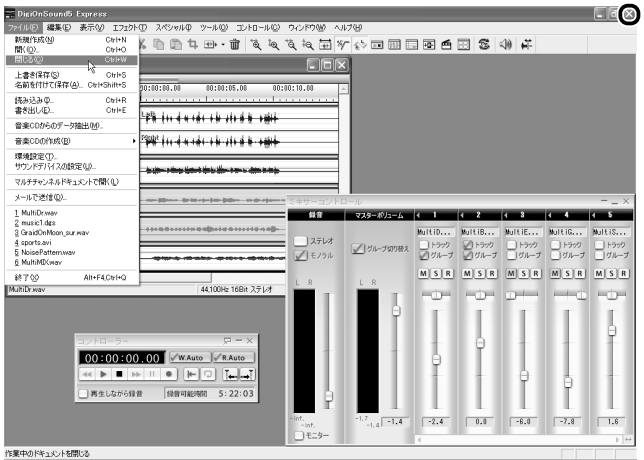
5 書き出し結果を確認したい場合は［はい］をクリックします。すると、新規マルチトラックウィンドウが作成され、ミックスダウンした2チャンネルのMP3ファイルがトラック1に表示されます。また、［いいえ］をクリックすると、ファイルの書き出し作業は終了します。

［詳細情報］ボタンをクリックすると、書き出しサウンドファイルの形式のより細かな設定が行えます。

MP3ファイルの再生には、Windows標準搭載のWindows Media Playerなどの、MP3再生ソフトが必要となります。

6 編集したマルチトラックファイルを、編集後の状態で保存しておきたい場合は、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択します。

7 編集したオリジナルデータが不要な場合は、[ファイル] メニューから [閉じる] を選択、またはウィンドウ右上の [閉じる] ボタンをクリックします。



8 ファイル（ドキュメント）を保存をせずに閉じようとすると、「変更内容を保存するかどうか」を聞くダイアログが開きます。

9 ここで [はい] をクリックすると、[書き出し] ダイアログボックスが表示されます。

ヒント

[上書き保存] を選択すると、同じファイル名のままで編集結果が上書きされます（オリジナルデータはなくなります）。[名前を付けて保存]を選択すると、新規ファイルとして保存します。

注意

オリジナルファイルに編集を加えずに保存しておきたい場合は、必ず [名前をつけて保存] を実行するか、編集ファイルを保存しないで、ファイルを閉じてください。

マイクや外部オーディオ機器から録音する（基本操作）

DigiOnSound5は、サウンドファイルを読み込んで編集するだけでなく、PCにマイクやMDなどのオーディオ機器をライン入力して、ハードディスクレコーディングを行うことができます。ここでは、基本的な録音方法を説明します。

1 ［ファイル］メニューから［新規作成］を選んで、録音用の空のモノラルトラックを新規で作成します。

2 次に［コントロール］メニューから［録音コントロール］を選択します。すると［録音コントロール］ダイアログボックスが表示されますので、マイク、またはライン入力（オーディオ機器）のどちらの入力信号を録音するか設定します。
なお、ここで表示される［録音コントロール］ダイアログボックスの内容は、お手持ちのPCに搭載されているサウンドカード（またはオーディオインターフェイス）の種類により異なります。

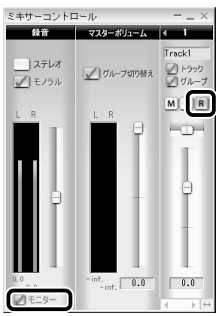
3 ［ミキサーコントロール］ウィンドウの［録音チャンネル設定］ボタンの［モノラル（モノラル録音）］チェックボックスをクリックしてオンにします。これでモノラル録音が可能となります。もし、ステレオトラックにステレオ録音する場合は、［ステレオ（ステレオ録音）］チェックボックスをオンにします。ただし、両方を同時にオンにすることはできません。

注意

どのようなオーディオ機器をどのくらいPCに接続できるかといった録音環境は、PCに搭載されているサウンドカード（またはオーディオインターフェイス）の種類により異なります。詳しくは、お手持ちのPCに搭載されているサウンドカード（またはオーディオインターフェイス）の取り扱い説明書を参照してください。

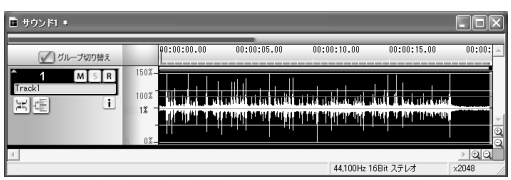
基本

4 ［トラックコントロール］または［ミキサーコントロール］ウィンドウの［レコード］ボタンをクリックして、録音先のトラックを指定します。また［録音モニター］チェックボックスをチェックすると、録音レベルをモニターできます。



5 ［コントローラー］の［録音］ボタンをクリックすると、録音待機状態となります。準備ができたら、［再生］または［一時停止］ボタンをクリックすると録音を開始します。
録音中に［一時停止］ボタンをクリックすると、そのポイントで録音が待機状態となり、［再生］または［一時停止］ボタンをクリックすると再び録音を開始します。
録音を終了する場合は［停止］ボタンをクリックしてください。

6 録音が終了すると、トラックに波形データが表示されます。再生して、録音結果を確認してみましょう。



ヒント

ステレオファイルとモノラルファイルについては、オンラインマニュアル『ステレオファイルとモノラルファイル』を参照してください。

注意

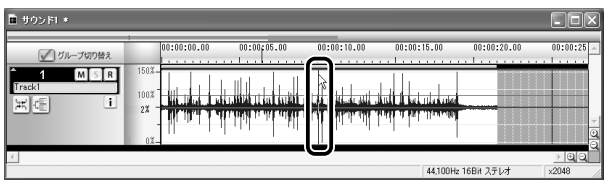
［ミキサーコントロール］ウィンドウの［録音チャンネル設定］ボタンの［モノラル/ステレオ］の設定と、録音先に指定したトラックの属性（モノラル/ステレオ）が異なる場合は、エラーメッセージが表示され、録音先に指定することができません。

録音レベルが大き過ぎると音が歪んでしまい、逆に小さ過ぎると録音後の音質は悪くなってしまいます。［録音レベルコントロール］スライダーで最適なレベルに調整してください。

録音ポイントを設定する~その1：挿入録音

一度録音したトラックや、すでに波形データがあるトラックに録音する場合は、「挿入録音」と「上書き録音」の二とおりの方法があります。

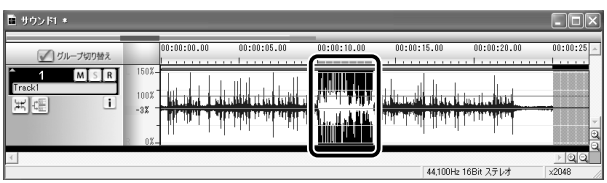
1 新しく録音を行いたい場所に、点滅カーソルを配置します（→P.10）。



2 『マイクや外部オーディオ機器から録音する（基本操作）（→P.43）』の録音手順に従って、録音待機状態にします。

3 ［コントローラー］の［再生］または［一時停止］ボタンをクリックして、録音を開始します。［停止］ボタンをクリックすると、録音が停止します。

4 録音が終了すると、手順1で点滅カーソルを配置したポイントに、録音した波形データが挿入されます。



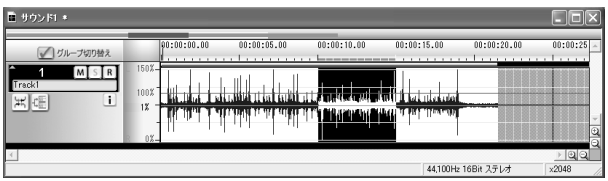
メモ

挿入された録音波形データは範囲選択された状態になります。

録音ポイントを設定する~その2：上書き録音

波形データの一部を範囲選択し、その状態で録音を行うと、範囲選択されたオリジナルの波形データを削除し、そこに新しく上書き録音を行います。

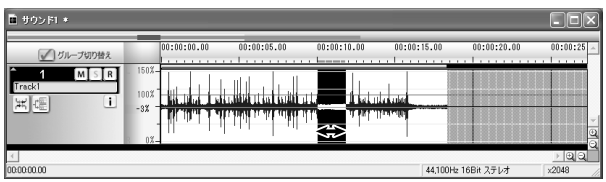
1 上書き録音を行いたい場所を、範囲選択します。



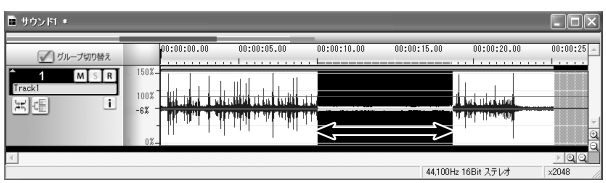
2 『マイクや外部オーディオ機器から録音する（基本操作）（→P.43）』の録音手順に従って、録音待機状態にします。

3 ［コントローラー］の［再生］または［一時停止］ボタンをクリックして、録音を開始します。［停止］ボタンをクリックすると、録音が停止します。

4 録音が終了すると、手順1で範囲選択したエリアに、新しく録音した波形データが上書きされます。



手順1の範囲選択時間より録音時間が短かった場合



手順1の範囲選択時間より録音時間が長かった場合

空トラックに一度録音を行った後に録音をやり直したい場合は、最初に録音した波形データをすべて選択してから、再度録音を実行します。

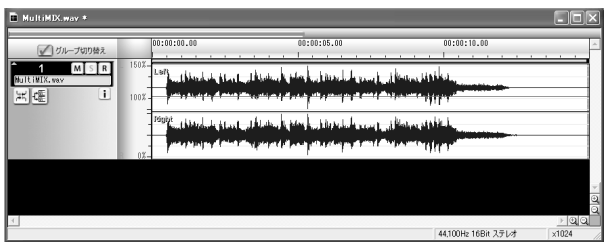
［コントローラー］の［再生しながら録音］チェックボックスをオンにした場合は、必ず空トラックに録音する必要があります。

挿入された録音波形データは範囲選択された状態になります。

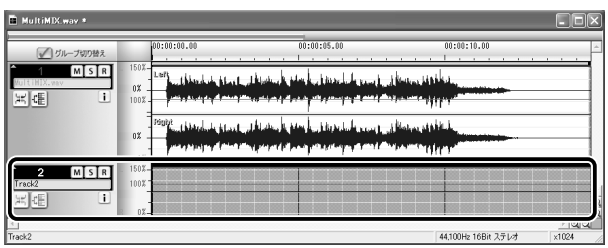
マルチトラックを再生しながら録音する（オーバーダビング機能）

マルチトラックレコーダーは、読み込んだ波形データや、すでに録音が終わったトラックを再生音を聴きながら、新しいトラックに録音することができます。このような録音方法をオーバーダビング機能と言います。DigiOnSound5では、波形データのない空トラックを追加することで、オーバーダビングが行えます。
ここでは、音楽CDに収録されているカラオケ曲のデータをPCに取り込み、ボーカルを録音する方法を説明します。

1 カラオケ曲を含む音楽CDをPCのCD-ROMまたはCD-R/RWドライブにセットし、［ファイル］メニューから［音楽CDからのデータ抽出］を選択し、データ抽出を行います。
すると、カラオケ曲のステレオデータがトラック１に読み込まれます。



2 ボーカル録音用に、新規モノラルトラックを追加します。［編集］メニューから［トラック追加］-［モノラルトラックの追加］を選択すると、空トラックがトラック２に追加されます。



ヒント

CD-ROMまたはCD-R/RWドライブを利用し、音楽CDの曲データをPCに取り込むことを「音楽CDからのデータ抽出」と言います。音楽CDからのデータ抽出については、オンラインマニュアル『音楽CDのサウンドデータを取り込む』を参照してください。

注意

音楽CDから録音を行う場合は、CD-ROMやCD-R/RWドライブが必要となります。

3 『マイクや外部オーディオ機器から録音する（基本操作）（→P.43）』の録音手順１～４を参考に、マイク録音の下準備を行います。

［ミキサーコントロール］ウィンドウの［録音モニター］チェックボックスをチェックすると、録音レベルをモニターできます。声を出してみて、録音レベルメーターが振れるかどうか確認し、最適なレベルとなるように［録音レベルコントロール］スライダーで調整します。

4 ［コントローラー］の［再生しながら録音］チェックボックスにチェックを入れて、［録音］ボタンをクリックします。すると、オーバーダビング録音の待機状態となります。
準備ができたら、［再生］または［一時停止］ボタンをクリックするとオーバーダビング録音を開始します。

5 録音が終了すると、トラックに波形データが表示されます。マルチトラックを再生して、録音結果を確認してみましょう。

6 再度ボーカルを録音し直したい場合は、トラック２の波形データ上をマウスでダブルクリックし、すべての波形を範囲選択した後、削除してから再度録音を行います。
また、手順4で録音したトラックはそのまま残しながら、別テイクを録音したい場合は、トラック２の［ミュート］ボタン（→P.9）をクリックしてトラック2をミュート状態にした上で、手順1からの作業を繰り返します。この場合、新しいテイクはトラック３に録音します。

最初のテイクを残しつつ録り直す場合

注意

［録音モニター］チェックボックスをオンにして、［録音レベルコントロール］スライダーを上げても録音レベルメーターが振れない場合は、マイクの音声がPCに入力されていない可能性があります。その場合は、『トラブルシューティング（→P.55）』を参照してください。

ヒント

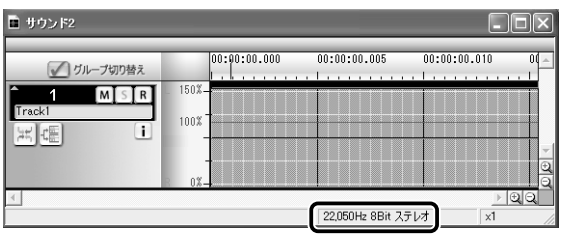
録音中に［一時停止］ボタンをクリックすると、そのポイントで録音が待機状態となり、［再生］または［一時停止］ボタンをクリックすると再び録音を開始します。
録音を終了する場合は［停止］ボタンをクリックしてください。

録音するサウンド形式（サンプリング周波数/量子化ビット数）を設定する

サウンドファイルの音質を決める重要なパラメーターにサンプリング周波数と量子化ビット数があります。これらのパラメーター設定しておくことで、目的に合わせた音質とデータサイズのサウンドファイルを作成することができます。
また、サウンドファイルのサンプリング周波数と量子化ビット数を後でコンバート（変換）することも可能です。

1 ［ファイル］メニューから［環境設定］を選択すると、［環境設定］ダイアログボックスが表示されます。新たに作成する［マルチトラックウィンドウ］のファイル形式は、この［サウンド形式］タブで設定したサンプリング周波数/量子化ビット数で作成されます。
ここでは例として、サンプリング周波数を22.05kHz、量子化ビット数を 8 ビットに設定します。

2 ［ファイル］メニューから［新規作成］を選択すると、新しい［マルチトラックウィンドウ］が作成されます。すると、手順 1 の［環境設定］で設定したサンプリング周波数/量子化ビット数になっていることを確認してください。



3 サンプリング周波数/量子化ビット数を変更したい場合は、［エフェクトランチャー］の［サウンド形式］ボタンをクリックして［サウンド形式］ダイアログボックスを表示し、サウンド形式を設定します。詳細は、オンラインマニュアル『サウンド形式をコンバートする』を参照してください。

用語

サンプリング周波数と量子化ビット数についてはオンラインマニュアル『サウンドファイルとは？（サウンドファイルの基礎）』を参照してください。

ファイルのコンバートについては、オンラインマニュアル『サウンド形式をコンバートする（サンプリング周波数/量子化ビット数の変換）』を参照してください。

注意

選択できるサンプリング周波数は、2kHz～192kHzです。量子化ビット数は、8、16ビットです。

メモ

サンプリング周波数が高いほど高音域の周波数特性は良く、量子化ビット数が高いほどダイナミックレンジは広がります（反面、ファイルサイズは大きくなります）。音楽CDの場合、サンプリング周波数は44.1kHz、量子化ビット数は16ビットです。

サウンドデバイスを設定する

DigiOnSound5は、サウンドデバイスが正しく設定されていないと、サウンドファイルの再生や録音が行えません。再生や録音がうまく行えない場合は、サウンドデバイスの設定をよく確認してみてください。

1 ［ファイル］メニューから［サウンドデバイスの設定］を選択します。すると［サウンドデバイスの設定］ダイアログボックスが表示されます。以下の項目を設定します。

［出力サウンドデバイス］

WaveOut　：再生の際に、Windows標準の再生機能（WaveOut）を使用します。

DirectSound　：再生の際に、DirectSoundの再生機能を使用します。

【WaveOut】

・サウンドデバイス：［WaveOut］に対応したサウンドデバイスを一覧表示します。

・サウンドバッファの長さ：再生の際に、一度にどのくらいの長さの音の領域をメモリに確保するかを設定します。

・サウンドバッファの個数：［サウンドバッファの長さ］で確保したメモリ領域をいくつ用意するかを設定します。

【DirectSound】

・サウンドデバイス：［DirectSound］に対応したサウンドデバイスを一覧表示します。

・サウンドバッファの長さ：再生の際に、一度にどのくらいの長さの音の領域をメモリに確保するかを設定します。

メモ

一度に確保できるサウンドバッファの領域は、［サウンドバッファの長さ］×［サウンドバッファの個数］で算出される秒数になります。もし、再生の際に音飛びが生じる場合、ここの数値を調整することで問題を解決することができます。

メモ

再生の際に音飛びが生じる場合、［サウンドバッファの長さ］を調整することで問題を解決することができます。そのほか再生に問題がある場合は、トラブルシューティング（→P.55）を参照してください。

［入力サウンドデバイス］

録音の設定を行います。［WaveIn］を利用して行います。
DirectSoundを利用した録音機構は用意しておりません。

・サウンドデバイス：Windows標準の録音機構（WaveIn）に対応したサウンドデバイスを一覧表示します。
・サウンドバッファの長さ：録音の際に、一度にどのくらいの長さの音の領域をメモリに確保するかを設定します。
・録音位置の補正値：［再生しながら録音］機能を使用して録音する際に、再生トラックのサウンドデータに対し録音されたデータで時間のずれが生じる場合があります。ずれの程度はPC環境によって異なりますので、ここであらかじめ、予測される時間のずれを設定しておくことで［再生しながら録音］機能を利用した場合の録音トラックと再生トラックの時間のずれを補正することができます。

録音の際に音飛びが生じる場合、［サウンドバッファの長さ］を調整することで問題を解決することができます。そのほか録音に問題がある場合は、トラブルシューティング（→P.55）を参照してください。

メニューの説明（ヘルプの紹介）

DigiOnSound5 Expressの多くの操作は、メニュー（→P.7）からコマンドを選ぶことで実行できます。
DigiOnSound5 Expressソフトウェアの［ヘルプ］メニューから［目次］を選ぶと『DigiOnSound5 オンラインマニュアル』を開くことができます。
オンラインマニュアルでは、すべてのコマンドについての説明や、各種操作方法、How To集、トラブルシューティングなどを記載していますので、本マニュアルと併せてご利用ください。

1 ［ヘルプ］メニューから［目次］を選びクリックします。

2 DigiOnSound5のヘルプ（オンラインマニュアル）が起動します。［メニュー一覧（コマンドリファレンス）］をクリックすると、全コマンドの説明ページが表示されます。調べたいコマンドをクリックしてください。

注意

オンラインマニュアルを見るには、ブラウザーソフト（Internet ExplorerやNetscape Navigator）が必要となります。

応用編①：逆引き辞典〜How To 集

すべてのトラックを一度に選択したい

・［コントローラー（→P.12）］の［全トラック先頭に移動］ボタンをクリックします。
・［タイムルーラー（→P.8）］をクリックします。
・［振幅表示］エリア（→P.8）の最上部をクリックします。

ふたつのWAV（MP3）ファイルをひとつにまとめたい

トラック間で波形データを『コピー＆ペースト』することで複数のWAVファイルをひとつにまとめることができます。WAV以外のファイル形式でも同様です。

録音した音量を大きくしたい

［エフェクトランチャー］の［ノーマライズ］を使うと、音質を損なわない範囲で最大の音量にすることができます。読み込んでいる全トラックの音量を上げる場合は、［エフェクト］タブの［ノーマライズ］を、チャンネルを指定して音量を上げる場合は［スペシャル］タブの［ノーマライズ］を使います。

ベースなどの低音を目立たせたい

［エフェクトランチャー］の『グラフィックEQ』や『パラメトリックEQ』を使って、低音を強調させることができます。

テンポの異なるドラムとベースのリズムを合わせたい 映像とBGMの長さを合わせたい

［エフェクトランチャー］の［タイムストレッチ］を使うことで、音程や音色を変えずに、再生スピードを変えて演奏テンポをコントロールしたり、音楽の長さを調整することができます。

ひとつのトラックを5秒遅れで再生させたい

『オフセット』を設定することで再生を遅らせることができます。

ライブ録音をインデックスをつけて音楽CDにしたい

オンラインマニュアル『レコードやカセットテープの音をCDにしたい（アナログ録音）〜波形データを曲ごとに分ける』を参照してください。

テープやレコードから録音した音をキレイにしたい

［エフェクトランチャー］に用意されている［ノイズリダクション -ノイズゲート- / -ヒスノイズ- / -ハムノイズ- / -クラックルノイズ- / -取り込み- / -削除-］を使うことで、ノイズを取り去ることができます。

ドラムやギターを録音したい

ご利用のサウンドカード（オーディオインターフェイス）にマイクやギターなどの楽器を直接接続できない場合は、別途ラインミキサーなどの機器を用意してマイクや楽器を接続し、そのアナログ/デジタル出力をサウンドカードのアナログ/デジタル入力に接続して録音します。

サンプリング周波数192kHzで録音をしたい

ご利用のサウンドカード（オーディオインターフェイス）が録音時に192kHzのサンプリング周波数に対応していれば可能です。

曲間を0にしてCDを作成したい/プリギャップを設定したい

［音楽CDの作成］ダイアログボックスで［曲間の長さ］ボタンをクリックするとプリギャップ（音楽CDの曲間）を0/1/2/3秒の中から設定できます。

自分のキーにあったカラオケを作りたい

お気に入りの音楽CDからカラオケを作り、『ピッチシフト』を利用すると、カラオケのキーを変更することができます。

いつも利用するサウンドファイルを素早く読み込みたい

［ファイル］メニューの［環境設定］-［一時ファイル］タブで［一度作成したトラックデータを保存］チェックボックスをオンにすると、同じファイルを次回開いたときに素早く表示させることができます。ただし、そのデータを保存するディスク容量が必要となるため、ハードディスクドライブの空き容量が少なかったり、長時間録音を行う際はオフにしておくことをお薦めします。

波形データに設定したマーカーをリスト化したい

キューポイントなどのマーカーの情報は、［キューポイント・セクション・ループ リスト］ダイアログボックスで確認できます。さらに、［書き出し］ボタンをクリックすると、この情報をCSV形式でファイル出力でき、Excelで開くことが可能です。

16ビット/44.1kHz以外のサウンド形式のファイルをCDにしたい

DigiOnSound5 Expressでは、読み込んだサウンドファイルを［ファイル］メニューの［音楽CDの作成］でCD-R/RWに書き込もうとすると、自動的に音楽CDの形式である16ビット/44.1kHzに変換しますので、特別な処理を必要とせずに音楽CDにすることができます。

長時間録音したサウンドファイルを分割したい

［ツール］メニューの［サウンド分割］を利用して、サウンドファイルを複数のファイルに分割できます。設定した時間間隔での分割や、無音部分での分割、あらかじめ設定しておいたキューポイントでの分割と3とおりの方法があります。

応用編②：トラブルシューティング

ここでは、DigiOnSound5 Expressを使用する際に陥りやすいトラブルと想定される原因、その対処方法について説明しています。ユーザーサポートにご連絡いただく前に、一度トラブルシューティングの内容をご確認ください。
なお、本マニュアルで記載している内容以外にも、DigiOnSound5 Expressソフトの『ヘルプ』の『トラブルシューティング』では、さまざまなトラブルについての対処法を説明をしています。トラブルが起きた場合には、ヘルプも併せてご利用ください。

●インストール

シリアル番号を入力しているのに、エラーメッセージが表示されてインストールが行えない

シリアルナンバーを正確に入力する必要があります。半角英数の大文字で正しく入力してください（全角や小文字は入力間違いと見なされます）。

●インストール

Windows 2000 Professional / Windows XP にインストールできない

Administratorsグループのメンバでログインして、インストールしてください。Administratorとは、Windows 2000/XPのすべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウントのことです。

●インストール

古いバージョンのDigiOnSoundがPCに残ったままだが問題ないか

すべてのバージョンのDigiOnSoundは同じPCにインストール可能ですが、同時に複数バージョンを起動することはできません。ただし、体験版をインストールしている場合は、体験版はWindowsの［コントロールパネル］-［プログラムの追加と削除］でアンインストール（削除）してください。

●インストール

製品を別の人に譲りたいが譲渡は可能か？

使用許諾契約書にあるように1オーナーのみですので、譲渡はできません。

●ファイル関連

AVIフォーマットのファイルを開けない

対応しているコーデックが必要です。
コーデックとは、デジタルビデオやデジタルオーディオのデータを圧縮したり、元に戻す時に使用されるアルゴリズムで、他のPCで作成したAVIファイルのコーデックが、お使いのPCに入っていない場合には開くことができません。

●ファイル関連

Windows Media Playerで保存したWMAファイルがDigiOnSound5で開けない

Windows Media Player 10の［ツール］メニューから［オプション］-［音楽の取り込み］タブを選択し、［取り込んだ音楽を保護する］のチェックを外してからWMAフォーマットで保存してください。

●ファイル関連

MIDIファイルを読み込めない

DigiOnSound5 Expressは、MIDIデータの再生をサポートしておりません。ただし、サウンドカードの種類によっては、MIDIプレイヤーソフトで再生したサウンドをDigiOnSound5 Expressで録音することも可能です。

●ファイル関連

ファイル名が長いサウンドファイルを保存できない

ファイル名の長さは、パスを含めて半角英数文字で最大256文字（全角で127文字）です。この文字数以下のファイル名を付けてください。

●ファイル関連

編集したトラックをWAVやMP3ファイル形式で保存できない

［ファイル］メニューから［上書き保存］または［名前を付けて保存］を選択すると、DigiOnSoundファイル形式で保存されます。WAVなどのファイル形式で保存する場合は、［ファイル］メニューから［書き出し］を選択してください。

●ファイル関連

DigiOnSound5 Expressで作成したファイルが、他のサウンド/ビデオ編集ソフトで取り込めない

DigiOnSound形式で保存したファイルは、DigiOnSound5 ExpressやDigiOnAudio2で取り込むことができますが、一般的なサウンド編集ソフトで使用する場合は、WAVファイル形式でファイルを書き出してください。

●再生と録音

MDやCS放送の音をデジタル録音できない

MDやデジタル放送のデータ（楽曲）にデジタル著作権管理情報が含まれている場合、著作権保護機能が働きデジタル録音が行えないことがあります。

●再生と録音

再生してもPCから音が出ない

以下のポイントを確認してください。
・トラックがミュート状態になってないか？
・サウンドデバイスが正しく設定されているか？

●再生と録音

録音できない

以下の内容を確認してください。
・録音待機状態になってないか？
・［録音コントロール］で適切な入力デバイスが選択されているか？
・マイクやオーディオ機器と正しく接続されているか？
・サウンドデバイスが正しく設定されているか？
・Windowsのサウンドレコーダーで録音できるか？

●再生と録音

PCにマイク入力端子しかなくオーディオ機器を接続できない

オーディオ出力ケーブルをマイク入力端子に接続してください。この場合、［録音コントロール］ダイアログボックスではマイクを選択します。［録音レベルコントロール］スライダーを調整してもメーターが振り切ってしまう場合は、オーディオ機器の出力ボリュームを小さくしてください。
また、お使いのPCにUSB端子が装備されている場合は、USB接続で使用可能なオーディオインターフェイスを導入することができます（ご使用の機器によって正常に動作しない場合があります）。

●再生と録音

［ミキサーコントロール］の［録音レベルコントロール］スライダーが動かない

・お使いのサウンドカードが複数の録音ソース（ライン入力とマイク入力など）の同時入力に対応している場合があります。この場合は、［コントロール］-［録音コントロール］より［録音コントロール］ウィンドウを起動し、ここでレベルの調整を行ってください。［録音コントロール］ウィンドウが起動しない場合は、サウンドカード本体に録音レベルを調整するつまみ等がある場合があります。この場合は、お手持ちのサウンドカードの取扱説明書を参照してください。
・一部のサウンドカードやUSBオーディオインターフェイスでは、それぞれの機器で録音レベルの調整を行う種類の機種があります。この場合、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

●再生と録音

録音中に「仮想メモリが足りません」とメッセージが出て録音がストップしてしまう

DigiOnSound5 Expressで録音を行う場合、PCのハードディスクに直接保存されるのではなく、一時的な作業用フォルダ（仮想メモリ）にトラックデータを作成します。この一時フォルダに設定しているドライブの空き容量が少ないと、録音が途中で終了してしまいます。［ファイル］メニューから［環境設定］-［一時ファイル］タブで、一時フォルダの場所を変更してください。または、［トラックデーター時ファイル］-［ファイルの削除］で、空き容量を確保してください。

●再生と録音

録音した音が歪んでいる

録音時のレベルオーバーが原因です。歪んで録音されてしまった音は元に戻せませんので、録音レベルの調整には十分注意してください。

●再生と録音

録音レベルを最大にしても、小さな音でしか録音できない

PCに接続したオーディオ機器の出力ボリュームを上げてください。また、録音後に『レベル』や『ノーマライズ』といったエフェクトで処理を行ってください。

●再生と録音

ICレコーダーで録音した議事録が聴きづらい

会議などをICレコーダーで録音すると、話し手とICレコーダーとの距離によって、大きな声で録音できる人と小さく録音されてしまう人のバラつきができてしまいます。そのような場合は、［エフェクトランチャー］の［コンプレッサー］や［ノーマライズ］といったエフェクトを利用することで、音量のバラつきを整えて聴きやすくすることができます。

●再生と録音

ハードディスクの空き容量が10GBあるのに、4GB程度しか録音できない

［環境設定］-［一時ファイル］タブで保存先に指定されているハードディスクドライブのファイルシステムがFAT32の場合、ファイルサイズに「4GB」という制限が設けられており、それ以上のサイズは作成できないような仕様となっています。そのため、空きが4GB以上であっても、それ以上の録音はできません。

●再生と録音

再生しながら、別トラックに録音できない

［コントローラー］の［再生しながら録音］チェックボックスをオンにしておくと、読み込んだサウンドファイルを再生しながら、別トラックに録音できます。ご使用になっているサウンドカード（オーディオインターフェイス）の設定によっては、［再生しながら録音］できない場合があります。［再生しながら録音］を行うためには、全二重に対応したサウンドカードが必要です。ご使用のサウンドカードの機能や設定方法については、サウンドカードの取扱説明書をご覧ください。

●再生と録音

ATRAC3形式のサウンドファイルを再生できない

DigiOnSound5 Expressは、ATRAC3形式のサウンドファイルには対応しておりません。本ソフトが対応しているファイル形式の詳細についてはオンラインマニュアル『サウンドファイルとは？』を参照してください。

●再生と録音

［Tutorial］など、マニュアルに記載されているフォルダの場所がわからない

本マニュアルで使用するサウンドファイルは、DigiOn Sound5 Expressのプログラムと同時にお使いのPCにインストールされるもので、通常はCドライブの［Program Files］-［DigiOn］-［DigiOnSound5 Express］フォルダ内にあります。インストール時に、プログラムのインストール先を変更した場合は、変更後のインストール先に保存されています。

●再生と録音

点滅カーソルを全トラックの先頭に移動しても、［コントローラー］の時間表示が変わらない

［コントローラー］の［録音／再生位置モニター］は、［全トラックの先頭に移動］ボタンをクリックしても『00:00:00.00』に戻らず、再生開始時にリセットされます。［録音／再生位置モニター］上をマウスでダブルクリックすると、表示がリセットされます。

●音楽CD作成

DigiOnSound5 Expressで作成した音楽CDがCDプレイヤーで再生できない

DigiOnSound5 Expressでは、CD-R/RWにサウンドファイルを書き込むことで音楽CDを作成できます。お使いのCDプレイヤーがCD-R/RWに対応してないことが考えられます。CDプレイヤーの取扱説明書でご確認ください。

●音楽CD作成

4秒以下のファイルがあるとCD-R/RWに書き込みができない

音楽CDを作成するには、4秒以上の波形データが必要です。［エフェクト］-［挿入］-［サイレンス］で無音を挿入するなどして、4秒以上のデータにしてください。

●編集

［トラック内ミキシング］ボタンがみあたらない

モノラルファイルを読み込んだ時に、トラックの振幅表示がもっともズームアウトされている場合は、［トラック内ミキシング］ボタン（→P.9）と［トラック分割］ボタン（→P.9）の表示が隠されています。該当するトラックを『振幅ズームイン』すると、これらのボタンが表示されるようになります。

●編集

［コントローラー］の［ループ］ボタンがグレーアウト状態でクリックできず、ループ再生が行えない

［オートメーション書き込み］ボタンがオンになっているとループ再生が行えません。［オートメーション書き込み］ボタンをオフにして、パン/ボリュームエンベロープの書き込みができない状態にしてください。

●編集

［ツール］メニューの［フェードイン・アウト］と、［エフェクト］メニューの［フェードイン・アウト］の違いがわからない

［ツール］メニューの［フェードイン・アウト］が、オートメーション機能を利用して、ボリュームエンベロープにフェードイン・アウトの形状を書き込んで再生するのに対して、［エフェクト］メニュー（または［エフェクトランチャー］）の［フェードイン・アウト］は、波形自体をフェードイン・アウト状に書き換えて加工します。元の波形はそのままで、フェードイン・アウトの効果だけを得たい場合は、［ツール］メニューの［フェードイン・アウト］をお使いください。

●編集

波形上でマウス操作をしていると、間違って波形のコピーやペーストを行ってしまう

［ファイル］メニューの［環境設定］-［編集］タブで、［ドラッグアンドドロップによる波形の編集を有効にする］チェックボックスをオフにすると、マウスのドラッグ＆ドロップによる波形のコピー＆ペーストの誤動作を防げます。

●編集

パン/ボリュームエンベロープを設定したファイルを他の音楽ソフトで再生したら、エンベロープの設定が反映されていない

オートメーション機能を使って設定したパン/ボリュームエンベロープは、［ツール］メニューの［トラックデータのミキシング］を実行することで、波形に反映され、他の音楽ソフトで再生可能となります。

●編集

ビデオファイルの編集ができない

DigiOnSound5 Expressは、マルチトラックサウンド編集ソフトですので、ビデオファイルの映像編集は行えません。ビデオ編集ソフトで映像を編集した上で、本ソフトでビデオファイルの音声編集を行ってください。

●編集

キューポイントが画面に表示されない

［タイムルーラー］や［キューポイント・セクション表示］エリアが非表示になっていると、キューポイントやセクション、ループ名が表示されません。［表示］メニューから［タイムルーラー］/［キューポイント・セクション］を選択して表示してください。

●エフェクト

1曲目と2曲目をつなげたら音量に差がある

［エフェクトランチャー］の［レベル］や［ノーマライズ］などのエフェクトを利用して、音量レベルを調整してください。

●エフェクト

ボーカルにエコーをかけたいがエフェクトに内蔵されていない

［エフェクトランチャー］の［リバーブ］や［ディレイ］などのエフェクトを利用すると、カラオケのエコーのような効果を作り出せます。

●エフェクト

エフェクトをプレビューすると、きれいに再生されない

『ノイズリダクション -クラックルノイズ-』など一部のエフェクトは、CPU負荷が大きいため、設定やお使いのPCの性能によっては正しくプレビューできない場合があります。ただし、そのような場合でもエフェクトを実行した結果は問題ありません。

●エフェクト

『ボーカルキャンセル』を使っても、ボーカルが消えない/他のパートが消えてしまう

ボーカルキャンセル機能は、ステレオトラックのセンターに定位しているサウンドをキャンセルするエフェクトです。そのため、ボーカル以外のセンターに定位しているパートの音量も下がってしまう場合があります。また、録音のされ方によっては、ボーカルも充分に消えない場合もありますので、ご了承ください。

●エフェクト

[エフェクトランチャー]で、クリックしても実行できないボタンがある

読み込んでいるサウンドに対して、処理できないタイプのエフェクトのボタンは非アクティブとなり、実行できません。各エフェクトの内容を確認し、サウンドファイルのタイプを確認してください。

●エフェクト

タイムストレッチを使うと会話が震えて聞こえる/音楽のビートが不明瞭になる

会話などの声が震えたような再生となる場合は、[タイムストレッチ]ダイアログボックスの[アタック情報を追加する]チェックボックスをオフにしてください。音楽のビートが不明瞭な場合は、チェックボックスをオンにしてください。これらの詳細については、オンラインマニュアル『タイムストレッチ』を参照してください。

●その他

[ビデオトラック表示エリア]にビデオのフレームが一部分しか表示されない

サウンドトラックの波形を拡大表示させると、1フレーム単位でビデオを表示できます。

●その他

DigiOnSound5 Expressを使っているとすぐにハードディスクが一杯になってしまう

[ファイル]メニューの[環境設定]-[一時ファイル]タブで、空き容量の多いハードディスクを指定してください。また、空き容量があまり無いハードディスクで作業を行う場合、[一度作成したトラックデータを保存]チェックボックスをオフにください。現在ハードディスクに溜まっている一時ファイルは[ファイルの削除]ボタンを押すことで削除できます。

●その他

『音楽CDからのデータ抽出』を行うと、音が振り切れて、波形が平らになっている

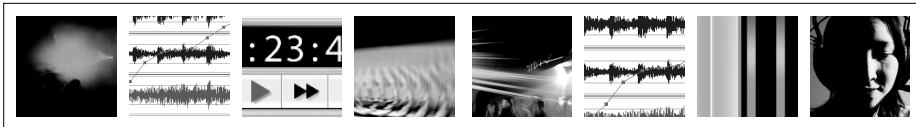
市販の音楽CDは、サウンドができるだけ大きな音で収録されるように、コンプレッサーやノーマライズ処理がされているため、波形が平らになって見える場合がありますが、波形がクリップして歪んでいるわけではありません。

●その他

長時間録音したサウンドファイルをCD-R/RWに書き込めない

一般的に、640MBのCD-R/RWには74分、700MBでは80分のサウンドファイルを書き込むことができますが、それ以上の時間を録音したサウンドファイルはCD化できません。その場合は、収録可能な範囲のファイルに波形を分割してください。波形分割については、オンラインマニュアル『サウンドを波形分割する』を参照してください。

付録編



Multi-track Sound Editing Software

DIGIONSOUND®5 EXPRESS

ショートカット一覧

●ファイルメニュー

Ctrl+N	：新規にマルチトラックウィンドウを作成します
Ctrl+O	：既存のサウンドファイルを開きます
Ctrl+W	：アクティブなマルチトラックウィンドウを閉じます
Ctrl+S	：アクティブなマルチトラックウィンドウのサウンドファイルを上書き保存します
Ctrl+Shift+S	：アクティブなマルチトラックウィンドウのサウンドファイルをDigiOnSound形式で保存します
Ctrl+R	：アクティブなマルチトラックウィンドウへトラックを追加し、サウンドファイルのデータを挿入します
Ctrl+E	：アクティブなマルチトラックウィンドウのデータをDigiOnSound形式以外のフォーマットでサウンドファイルへ書き出します
Alt+F4またはCtrl+Q	：DigiOnSound5を終了します

●編集メニュー

Ctrl+Z	：直前の操作を取り消します
Ctrl+Y	：取り消した操作を復元します
Ctrl+X	：選択しているサウンドデータを削除します 削除されたデータはクリップボードに保存されます
Ctrl+C	：選択しているサウンドデータをクリップボードにコピーします
Ctrl+V	：クリップボードに保存されているデータを点滅カーソル位置または選択区間へ挿入します
Delete	：選択しているサウンドデータを削除します 削除されたデータはクリップボードには保存されません
Ctrl+K	：選択区間のデータ以外のデータを削除（トリミング）します
HomeまたはCtrl+←	：トラックデータ先頭位置でない場合、トラックデータの先頭位置へ移動 トラックデータ先頭位置にある場合、開始位置へ移動
EndまたはCtrl+→	：トラックデータ最終位置でない場合、トラックデータの最終位置へ移動 トラックデータ最終位置にある場合、終了位置へ移動
Z	：点滅カーソルをゼロクロスへ移動します
X	：点滅カーソルを最大値へ移動します
Ctrl+J	：サウンドデータの表示位置を、点滅カーソルまたは選択区間が存在する位置へ変更します
1	：モノラルトラックを追加します
2	：ステレオトラックを追加します
M	：点滅カーソルがある位置へキューポイントを挿入します 選択区間がある位置へセクションを挿入します
L	：選択区間の位置へループを挿入します
Ctrl+A	：アクティブなマルチトラックウィンドウの全てのサウンドデータを選択します

●表示メニュー

]	：時間方向の表示を拡大します
}	：振幅方向の表示を拡大します
[	：時間方向の表示を縮小します
{	：振幅方向の表示を縮小します
Ctrl+F	：時間方向の全データが表示できるように表示を拡大/縮小します
Alt+1	：コントローラーの表示/非表示を切り替えます
Alt+2	：ミキサーコントロールの表示/非表示を切り替えます

Alt+3	：キューポイント・セクション・ループリストの表示/非表示を切り替えます
Alt+4	：選択区間ダイアログボックスの表示/非表示を切り替えます
Alt+5	：ビデオプレビューウィンドウの表示/非表示を切り替えます
Alt+6	：エフェクトランチャーの表示/非表示を切り替えます
Ctrl+U	：目盛りの単位を変更するダイアログボックスを表示します
Alt+Enter	：プロパティダイアログボックスを表示します

●コントロールメニュー

Space	：再生、再生停止
Ctrl+Space	：録音、録音停止
Shift+Space	：再生一時停止、再生再開、再生開始位置に戻ります
P	：前のマーカーへ移動
N	：次のマーカーへ移動
F	：Fキーを押している間、早送り再生
K	：早送り再生開始、終了
B	：Bキーを押している間、巻き戻し再生
J	：巻き戻し再生開始、終了

●その他

→	：表示倍率が×1以上のとき：1ピクセル右へ移動 表示倍率が×1以下のとき：1サンプル右へ移動
←	：表示倍率が×1以上のとき：1ピクセル左へ移動 表示倍率が×1以下のとき：1サンプル左へ移動
↑	：上のトラックへ移動
↓	：下のトラックへ移動
Shift+→	：表示倍率が×1以上のとき：選択範囲の終点を1ピクセル右へ移動 表示倍率が×1以下のとき：選択範囲の終点を1サンプル右へ移動
Shift+←	：表示倍率が×1以上のとき：選択範囲の終点を1ピクセル左へ移動 表示倍率が×1以下のとき：選択範囲の終点を1サンプル左へ移動
S	：ビデオファイルのとき、表示されているフレームに合わせて右へ移動
A	：ビデオファイルのとき、表示されているフレームに合わせて左へ移動
Alt+オフセットバー	：ビデオファイルのとき、表示されているフレームに合わせてサウンドトラックを移動 サウンドデータを選択し、ドラッグされている場合、挿入ポイントのグリッド吸着
Insert	：選択範囲の切り替え 全トラック選択でない場合、全トラック選択 全トラック選択の場合、前回の選択開始トラックのみ選択
Delete	：削除
BackSpace	：範囲選択状態ではDeleteと同じ
PageUp	：前のページを表示（選択範囲は変更しない）
PageDown	：次のページを表示（選択範囲は変更しない）
Ctrl+↑	：先頭のトラックへ
Ctrl+↓	：終端のトラックへ
Ctrl+Home	：先頭トラックの先頭位置へ
Ctrl+End	：終端トラックの終端位置へ
H	：開始位置で全トラック選択状態
Enter	：点滅カーソルを、選択範囲の始点・終点位置に交互に移動します

サポートカルテ

DigiOnSound5 Series サポートカルテ

以下の用紙にご記入の上、FAX にて送信してください。

受付番号
受付番号は弊社使用欄です

FAX 092-833-6278

お名前（よみがな）
製品のシリアル番号およびバージョン　※［ヘルプ］メニューの［バージョン情報］から確認いただけます。 シリアル No.：　DGON－　－　－ バージョン：
ご住所（〒　－　）
電話番号
FAX 番号
メールアドレス

パソコンのメーカーおよび機種・型番

メーカー/機種名

Windows の種類

CPU の種類とクロック数

メインメモリー

ハードディスク空き容量　C:　GB　D:　GB

サウンドカード：

お使いの CD-R/RW、DVD-R/RW のメーカーおよび型番

他のインストールプログラム

【お問い合わせの内容】
※お問い合わせの際は、より詳しく情報を提供くださいますようお願いいたします。
処理手順やエラーメッセージなどをより具体的にご記入ください。

ご希望回答方法　□FAX　□e-mail
このページを印刷してご利用ください。
他の方法でお問い合わせの際もこれらの情報をお聞きいたしますので、ご記入またはご準備ください。
楷書でお書きください。

ユーザー登録のお願い

ソフトウェアのご使用を開始されましたら、お早めにユーザー登録をお願いいたします。
ご登録いただいた個人情報は、弊社が提示しております「個人情報保護に関するポリシー」に基づき、管理・運用をおこないます。
ユーザー登録は、インターネットでのご登録が早くて便利です。DigiOnSound5シリーズ製品［ヘルプ］メニューの［ユーザー登録］をお選びいただくか、弊社Webサイトにある［ユーザー登録］から［DigiOnSound -ユーザー登録-］をお選びいただくと、インターネットでのご登録の案内が表示されます。インターネットによるご登録に不都合がある場合は、製品パッケージに同梱されております「ユーザー登録ハガキ」をご使用いただき、必要事項とアンケートをご記入のうえ、ご郵送ください。

ご登録いただいた個人情報は、以下の目的で利用させていただく場合があります。

- サポートサービスをご利用いただく場合のご本人様の確認（※）
- 製品をご利用いただくにあたって、弊社が必要と判断した場合のメールなどでのご連絡
- 社内統計資料作成（新製品開発での製品別利用者の年齢構成、性別構成など）
- アップグレード販売、優待販売などへのご案内

※ユーザーサポートサービスご利用いただくためには、事前にユーザー登録が必要となります。ご登録がお済みでないお客様は、ユーザーサポートサービスをご利用いただけない場合がございます。

「個人情報保護に関するポリシー」の詳細は下記アドレスでご確認いただけます。
http://www.digion.com/privacy/index02.htm

ユーザーサポートについて

1：Webサイトでのサポート情報などのご提供

みなさまからいただいたお問い合わせや、製品発売後に発見された不具合点などの情報は、弊社Webサイトに公開しております。
お問い合わせをいただく前に、一度弊社WebサイトよりFAQなどをご確認ください。

DigiOnホームページ　http://www.digion.com/

2：サポートサービスのご案内

ユーザー登録の手続きをされたユーザー様には、電話、FAX、E-mailによるサポートサービスをご提供いたしております。
サポートサービスの内容に関しましては、弊社Webサイトに掲載しております「ユーザーサポートに関するポリシー」をご確認いただきますようお願いいたします。

「ユーザーサポートに関するポリシー」の詳細は下記アドレスでご確認いただけます。
http://www.digion.com/pc/support/policy.htm

また、サポートセンターの電話番号、FAX番号、E-mailアドレス、ご利用時間に関しましては、製品パッケージに同梱されておりますユーザー登録ハガキのお客様控え部分に掲載しておりますので、ご確認ください。

3：ご登録情報の管理について

お客様がご登録いただいた情報は、株式会社デジオンおよび株式会社デジオンが秘密保持契約に基づき委託した企業によって厳重に管理されております。弊社サポートセンターおよび株式会社デジオンや委託企業からのご案内やご連絡のほかには、一切使用することはございません。

4：デジオン製品に関する情報

デジオン製品に関するご購入前のお問い合わせ窓口は、下記のとおりです。
なお、ご購入後の操作に関するお問い合わせは、サポートセンターへお願いいたします。

デジオンインフォメーションセンター

電話　：092-833-6279
FAX　：092-833-6278
E-mail：info@digion.com

営業時間：月曜日～金曜日（祝祭日および弊社特別休業日を除く）
AM10：00～12：00/PM1：00～5：00